令和４年度　事業報告書

（令和４年４月１日から令和５年３月３１日まで）

学校法人 西日本短期大学

Ⅰ　法人の概要

⑴　基本情報

①名称　　学校法人西日本短期大学

②住所　　〒810-0066　福岡県福岡市中央区福浜１－３－１

電話　　０９２－７２１－１１４１（代表）　ＦＡＸ　　０９２－７２１－１５３６

ホームページ　https://www.nishitan.ac.jp/

⑵　建学の精神

『宇宙精神』　・　『報恩感謝』

⑶　学校法人西日本短期大学の沿革

昭和23年12月	福岡市城内（旧黒田52万石の居城・舞鶴城跡）に戦災者、引揚者、遺家族の困窮学徒の勉学修道場として、創立者江口繁「学生の街大憲塾」を開設。
昭和30年３月	福岡県知事より各種学校の認可を受け、「大憲塾法学院」と改称。
昭和30年４月	中央大学法学部通信教育部連絡校に指定。
昭和32年３月	九州労働短期大学（直方市上新入）認可。
昭和34年４月	大憲塾法学院と九州労働短期大学は合併して、学校法人西日本短期大学を直方市上新入に設置し、校名を、九州労働短期大学は西日本短期大学（法科）、大憲塾法学院は西日本法律専門学校と改称し、法人理事長に江口繁氏、短期大学長に宇賀田順三氏、法律専門学校長に江口繁氏就任。
昭和37年４月	学校法人及び西日本短期大学（法科）を八女市大字亀甲に移転。
昭和37年４月	八女市に西日本短期大学附属高等学校（全日制普通課程）を開校。
昭和41年12月	学校法人理事長に江口昭八郎氏、前理事長江口繁氏会長に就任。
昭和42年１月	西日本短期大学造園科認可。
昭和42年９月	西日本短期大学附属高等学校校舎落成。
昭和43年２月	学校法人理事長江口昭八郎氏、西日本短期大学長事務取扱兼務。
昭和45年11月	福岡市中央区福浜一丁目に学校用地を取得。
昭和46年４月	西日本法律専門学校を福岡市中央区福浜に移転。
昭和48年４月	西日本短期大学法科を八女市から福岡市中央区福浜に移転。
昭和48年12月	学校法人理事長に内田松太氏就任。
昭和49年９月	学校法人会長に江口昭八郎氏就任。
昭和49年９月	学校法人理事長に江口敏夫氏就任。
昭和53年５月	学校法人理事長江口敏夫氏、西日本短期大学長事務取扱兼務。
昭和56年10月	学校法人理事長に辻英雄氏、副理事長に高田源清氏就任。
昭和59年４月	西日本短期大学造園科を福岡市中央区福浜に移転。
平成６年10月	学校法人理事長代行に溝口虎彦氏就任。
平成７年８月	学校法人理事長に溝口虎彦氏就任。
平成８年４月	学校法人本部を八女市から福岡市中央区福浜に移転。
平成８年４月	西日本法律専門学校廃校。
平成８年８月	西日本短期大学附属高等学校創立35周年記念館落成。
平成10年４月	西日本短期大学創立50周年記念事業として二丈キャンパスあずまや落成。
平成10年10月	西日本短期大学創立50周年記念式典。
平成14年12月	西日本短期大学社会福祉学科認可。（平成15年３月　介護福祉士養成施設指定）
平成16年４月	西日本短期大学附属高等学校茶道会館落成
平成16年11月	西日本短期大学保育学科認可。（平成17年３月　指定保育士養成施設指定・幼稚園教諭二種免許課程認定）
平成19年４月	西日本短期大学法科第二部を学生募集停止。 西日本短期大学保育学科入学定員増（75人→100人）
平成20年４月	西日本短期大学健康スポーツコミュニケーション学科設置。 （平成19年９月　第一種衛生管理者免許に係る指定校認定） 西日本短期大学別科日本語研修課程設置。
平成21年３月	西日本短期大学【第１回】第三者評価（（財）短期大学基準協会）適格認定。

平成21年３月　西日本短期大学法科第二部廃止。
平成22年４月　西日本短期大学別科日本語研修課程入学定員増。（60人→100人）
平成23年４月　西日本短期大学メディア・プロモーション学科設置。
平成23年10月　西日本短期大学法学科夜間主コース学生募集停止。
平成24年５月　収益事業部設置。
平成25年９月　西日本短期大学法学科夜間主コース廃止。
平成28年３月　西日本短期大学【第２回】第三者評価（（一財）短期大学基準協会）適格認定。
平成29年10月　西日本短期大学緑地環境学科50周年記念行事。
平成30年４月　西日本短期大学法学科をビジネス法学科に名称変更。
平成30年４月　西日本短期大学別科日本語研修課程入学定員増。（100人→150人）
平成30年12月　西日本短期大学別科日本語研修課程10周年記念行事。
平成31年４月　西日本短期大学ビジネス法学科入学定員減。（70人→60人）
西日本短期大学緑地環境学科入学定員減。（70人→60人）
西日本短期大学社会福祉学科入学定員減。（60人→50人）
令和２年４月　西日本短期大学ビジネス法学科入学定員減。（60人→50人）
西日本短期大学緑地環境学科入学定員減。（60人→50人）
西日本短期大学健康スポーツコミュニケーション学科入学定員減。（40人→30人）
令和３年４月　西日本短期大学保育学科入学定員減。（100人→90人）
令和４年３月　収益事業部廃止。
令和４年４月　西日本短期大学附属植物病院Ⓡ開設。
令和５年３月　西日本短期大学【第３回】認証評価（（一財）大学・短期大学基準協会）適格認定。

⑷　設置する学校、学科等の入学定員、現員等

西日本短期大学　（令和４年10月１日現在）

学　科　名	入学定員（人）	収容定員（人）	入学者数（人）	在籍者数（人）	充足率（%）
ビジネス法学科	50	100	45	88	88.0
緑地環境学科	50	100	28	66	66.0
社会福祉学科	50	100	46	98	98.0
保育学科	90	180	38	82	45.6
健康ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	30	60	19	31	51.7
ﾒﾃﾞｨｱ･ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ学科	40	80	16	36	45.0
計	310	620	190	401	64.7

別科　（令和４年10月１日現在）

課　程　名	入学定員（人）	収容定員（人）	在籍者数（人）	充足率（%）
日本語研修課程	150	150	12	8.0

附属高校　（令和４年10月１日現在）

課　程　名	入学定員（人）	収容定員（人）	入学者数（人）	在籍者数（人）	充足率（%）
普通科	200	600	180	452	75.3

⑸　卒業者数、学位授与数等（令和４年度卒業生）

西日本短期大学

学　科　名	卒業者数（人）	備　考
ビジネス法学科	41	
緑地環境学科	36	
社会福祉学科	51	
保育学科	43	
健康ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	12	
ﾒﾃﾞｨｱ･ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ学科	20	
計	203	

別科

課　程　名	卒業者数（人）	備　考
日本語研修課程	12	

附属高校

課　程　名	卒業者数（人）	備　考
普　通　科	133	

⑹　進路状況（令和４年度卒業生）

西日本短期大学

	卒業者数	就職希望者数	就職者数	内定率	自営業、無期・有期雇用労働者	アルバイト（パート含む）	編入者数	進学者数	家事手伝い	未決定者他
ビジネス法学科	41	36	34	94.4%	0	1	3	2	0	2
緑地環境学科	36	33	33	100.0%	1	0	0	0	0	0
社会福祉学科	51	49	49	100.0%	0	1	1	0	0	0
保育学科	43	40	40	100.0%	0	4	0	1	0	0
健康スポーツコミュニケーション学科	12	12	12	100.0%	1	0	0	0	0	0
メディア・プロモーション学科	20	12	12	100.0%	0	3	1	1	0	0
小計	203	182	180	98.9%	2	9	5	4	0	2

別科

	卒業者数（2年目修学者数も含む）	西日本短期大学へ進学	他大学、専門学校へ進学	帰国、その他	就職	別科へ残り（2年目）	西日本短期大学への進学率	他大学、専門学校への進学率
日本語研修課程	12	6	4	2	0	1	50.0%	33.3%

西日本短期大学附属高等学校

	卒業者数	大学等進学者数	専門学校へ進学	就職者数	公共職業能力開発施設等	一時的な仕事に就いた者	未決定者	進学率	就職率
普通科	133	74	30	29	0	0	0	78.2%	21.8%

⑺　教職員の人数（令和４年５月１日現在）

〈教員数〉

短期大学　　（学長は含まない）

学科名	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	非常勤		小計	合計
ビジネス法学科	3	0	1	1	0	5	客員 2名	19	21	26
緑地環境学科	4	1	1	2	0	8	客員 4名	12	16	24
社会福祉学科	2	0	4	1	1	8	客員 1名	15	16	24
保育学科	4	0	1	3	0	8	客員 1名	24	25	33
健康スポーツコミュニケーション学科	2	1	0	1	0	4	客員 0名	17	17	21
メディア・プロモーション学科	2	1	1	2	0	6	客員 1名	14	15	21
計	17	3	8	10	1	39	9	101	110	149

別科

課程名	別科長	教員	―	小計	非常勤	小計	合計
日本語研修課程	(1)	(2)	―	(3)	5	5	(3) 5

※注 …（）内の3名は、各学科の教員数でカウント。

附属高校

課程名	校長	副校長	副教頭	教諭	養護教諭	講師	小計	非常勤	小計	合計
普通科	1	1	2	16	1	13	34	12	12	46

〈職員数〉

( )内は嘱託　－内数－

学科名		
法　人　本　部	1　名	(1)
ビジネス法学科	6　名	(1)
緑地環境学科	5　名	(1)
社会福祉学科	7　名	(1)
保　育　学　科	6　名	(1)
健康ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	2　名	
ﾒﾃﾞｨｱ･ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ学科	3　名	(1)
別　科	0　名	
計	30　名	(6)
附　属　高　校	9　名	(4)
合計	39　名	(10)

※臨時職員除く。

⑻　理事・評議員・監事について（令和４年４月１日現在）

①　理　事

８条１項１号　　溝口　虎彦

８条１項２号　　新宮　五三
溝口　智之

８条１項３号　　阿利　欽章
今永　一成

８条１項４号　　田坂　大藏
北嶋　藤孝

監　事

１５条　　内田　信行
柴田　浩勝

②　評議員

21条１項１号　　中野　幹子　　久保田　家且　　大浦　太津也
冨永　明子　　橋本　五男　　多賀　晃
枝元　一登

21条１項２号　　阿利　欽章　　執行　英利　　古家　司
小山　徹志　　大里　公二　　別府　壽信
川波　慎太郎　　一山　幸子　　星子　和夫
髙宮　さやか　　弓削　博輝　　水浦　逸
井上　靖

21条１項３号　　溝口　虎彦　　溝口　智之　　真子　一博
北嶋　藤孝　　新宮　五三

21条１項４号　　森田　修示　　北野　哲也　　古田　雄三

Ⅱ　事業の概要

１．西日本短期大学

（１）教育・研究の概要

西日本短期大学では、建学の精神に則り、教育活動の充実を目的として３つのポリシー（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）　を策定している。

①学位授与の方針（ディプロマポリシー）
https://www.nishitan.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/joho6-1.pdf

②教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）
https://www.nishitan.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/joho5-1.pdf

③入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）
https://www.nishitan.ac.jp/wp-content/uploads/2022/08/joho4-1.pdf

（２）学校運営

①特待生制度の導入

他の模範となる優秀な人材の育成に資することを目的として、平成 25 年度入学生から導入、令和５年度入試においても引き続き全学科で実施した。

②学習継続のための支援体制の充実

経済的理由により就学が困難な学生に対し、本学独自に支援を行った。具体的には、対象学生が本学と提携している金融機関より教育ローンを借用した場合、在学中に支払われた利子相当額を本学が助成し、学習継続のための支援を行った。令和４年度は新入生を含め 10 名が利用した。（R1 年度（13 名）、R2 年度（10 名）、R3 年度（12 名））

③スクールカウンセラーの導入

心の問題を抱える学生のサポートや様々な課題に直面する学校現場でストレスを抱える教職員へのメンタルヘルスケアなど、学校におけるカウンセリング機能の充実を図るため、平成 24 年 11 月、臨床心理に専門的な知識・経験を有する学外の専門家（週１回、非常勤）を配置し、令和４年度も引き続き実施した。相談件数は年間を通じ約 119 件にのぼり、内容は対人関係・学業・家族など多方面に渡っている。

④公共機関から委託された職業訓練生の受け入れ

平成 21 年度から福岡高等技術専門校より職業訓練生の受け入れを行っている。令和４年度も引き続き受け入れ要請があり、保育学科５名の受け入れを行った。

⑤学生送迎バスの運行継続

八女・筑後地区の学生（主に附属高校出身者）を送迎するため、令和４年度もスクールバスの運行を継続して実施し、４１名の学生が利用した。送迎バスが運行されているので短期大学に入学するという学生もおり、学生募集の一助となっている。

⑴ １号車（大型）：　附属高校 ⇒ 羽犬塚駅 ⇒ 短期大学
⑵ ２号車（ﾏｲｸﾛ）：　西鉄久留米駅 ⇒ 短期大学

⑥公開講座の実施

●緑地環境学科

以下の企画について、オンラインと対面を併用して実施することができた。

⑴　12 月に唐人町商店街においてリース体験を実施した。二丈キャンパスにある植物を使用し、植物を最後まで使い切るエコ＆緑の体験活動とした。２月に、ロックガーデンを作庭し、生徒とともに植栽を行った。商店街においても中学校においても非常に好評であった。次年度は是非二丈キャンパスを訪れたい、次年度も校庭の環境改善をお願いしたいと依頼を受けた。

⑵　３月 26 日（日）に客員教授の内山貞文氏及び、アメリカポートランド市環境局長のドーン内山氏による特別講義を行い、一般にも公開し、年度末にも関わらず多くの業界および卒業

生が参加した。

⑶　二丈キャンパスの近隣のフリースクールの生徒を対象に、二丈キャンパスにあるコニファーや木の実などの採集をとおして、冬の木々の様子や木によって異なる性質などの説明を行い、採集後はリースを製作してもらった。子どもたちは、自然あふれる二丈キャンパスで学生の説明を聞きながら採集することが楽しかったと感想を述べていた。

⑷　９月から 12 月にかけて遠隔・対面の併用で日本造園学会九州支部において学生交流企画を実施した。九州大学・東京農業大学・南九州大学の学生とワークショップを行い、12 月の学会で発表を行った。

⑸　４月の「みどりの研修会Ⅰ」では17 社、６月の「みどりの研修会Ⅰ」では11 社、９月の「みどりの研修会Ⅱ」では25 社が参加した。

⑹　２月 12 日に学びの発表会 2022 を対面で開催し、行政・業界・保護者・卒業生・高校教員から多くの参加者があった。

⑺　放課後や休日を利用してオンライン３回・対面２回、社会で活躍する専門家を招き学生の勉強会を行った（山田耕三氏／花豊造園／日本庭園の仕事、金澤弓子氏／東京農大准教授／まちと植物、片木孝子氏／空間創建／女性のキャリアデザイン、徳永哲氏／ランドスケープむら／プレゼンテーション、卜部仁美氏／アンドグリーン／宿根花壇）。

⑻　アイランドシティ中央公園指定管理者の小山千緑園・ＦＭ福岡共同事業体との協力により、宮島ゼミナールの教員・学生が指導して公募した地元小学生４年生～６年生８名によるチョウ類による公園内の自然環境レベル調査を行った。調査は４月 16 日～10 月１日の間に 10 回実施し、調査した結果は 10 月 15 日に模造紙８枚にまとめて、11 月に開催された照葉地域の文化祭で発表した。参加した生徒や父兄からは好評であった。

●社会福祉学科

以下のプログラムを予定していたが、一部コロナの影響で実施できなかった。

⑴　ボランティア（買い物支援）／実施

⑵　生活困窮の親子や学生、若者達のためのフードバンク支援／実施なし

⑶　ご近所応援団　お話ボランティア／実施なし

⑷　福岡市教育委員会　学生サポーター制度／実施なし

⑸　MLAP music with all project／実施（参加）

⑹　公開講座、生涯学習、リカレント教育／実施なし

●健康スポーツコミュニケーション学科

以下の⑴から⑶について、今年度は実施することができ今後も継続していきたい。

⑴　楽動塾 2022

からだを「楽」しく「動」かしながら運動への関心を高め、巧みにカラダや物を操り、運動神経を高めることを目的に３回開催し、参加人数は合計 33 名であった。例年同様、参加児童、保護者より大変好評をいただいた。

⑵　西短キッズスポーツフェスティバル 2022

楽動塾やこれまでのキッズ系の学びの集大成として西短キッズスポーツフェスティバルを実施した。10 回目となる令和４年度も、学生自らが主となりプログラムやイベントの流れを作成し、学生のみで企画・運営・指導まで行った。本年も楽動塾とともに、事故無く終了することができ、参加児童や保護者の方からプログラムの内容や学生の対応など、今回も好評をいただいた。今後も地域社会における本学の社会的役割を果たしていくためにも継続する必要性があると強く感じた。

⑶　福浜健康体操教室

毎月第二金曜日に、学生や教員が福浜地区の高齢者を中心に運動指導をするもので、福岡市の市政だよりからの周知により年々参加者数が増加しており必要性を感じている。今後も地域社会に貢献できるように継続していきたい。

●メディア・プロモーション学科

令和４年度は、以下の⑴から⑼の制作・活動について実施することができた。

⑴　財務省・福岡財務支局の依頼により詐欺防止啓蒙ドラマを２本制作。（令和４年４月 25 日公開）
⑵　福岡国税局の依頼により確定申告 PR 用動画を制作し、福岡・長崎の公共機関など広く各地で上映。（令和５年１月～3 月）
⑶　オープンキャンパスにおいて、ご当地アイドルを招いたトークショー公開講座を開催。（令和４年９月４日）
⑷　学科オリジナル楽曲「しあわせになりたい！」ミュージックビデオを制作。（令和 4 年 10 月 7 日公開）
⑸　唐人町商店街・納涼夜市に「西短 MP 学科さくら組」出演。（令和４年８月 20 日）
⑹　配信ライブ開催。（令和４年８月５日、12 月 22 日）
⑺　学科ライブ開催。於：甘棠館 Show 劇場（令和４年 10 月５日）
⑻　学科の軌跡をまとめた本「アイドル力　福岡発！西短 MP 学科が日本を楽しくする」出版。（令和５年２月 10 日）
⑼　11 期生卒業公演開催。於：福岡市市民福祉プラザ・ふくふくホール（令和５年２月 25 日）

⑦その他、各学科の取り組み

●緑地環境学科

高齢者福祉施設と連携し、園芸福祉の知見を活かし、高齢者と学生や地域の人々との交流が可能な園芸福祉ガーデンを作庭した。

また、近隣の中学校と連携し、校庭に休憩スペースを作庭した。

●社会福祉学科

以下の⑶については、コロナの影響で実施できなかったが、その他の教育プログラムは実施することができた。

⑴　コミュニケーション能力向上のための教育プログラム
⑵　記述力向上プログラム
⑶　障害者介護教育プログラム
⑷　国家試験対策教育プログラム
⑸　四年制大学編入対策講座

●健康スポーツコミュニケーション学科

⑴　小川ゼミナールでは、2022 年度から本学にて「西短大の体育館であそぼう！」を月１回開催し、地域の未就学児とその保護者へ運動機会・場所やリフレッシュの機会を提供できた。新型コロナウイルスの影響や悪天候での中止が２回あったが、累計 69 組の親子、80 名以上の子どもが来場した。また、本学メディア・プロモーション学科の徳永教授や福岡市中央区地域保健福祉課、福岡市中央区子育て支援課など、他学科や地域行政と連携したイベントも開催し、本学の知的資源を活用して地域の健康づくりに貢献できたと考えられる。
⑵　JFA 公認キッズリーダー養成講習会を５月 14 日（土）に本学で開催し、取得希望者 11 名が JFA 公認キッズリーダーの資格を取得した。JFA 公認キッズリーダーは、サッカーのみならず体を動かす事の楽しさ、爽快さを子ども達に伝え、スポーツの魅力を実感してもらうことに重点を置いている。その資格を取得した学生が、JFA コーチと共に幼稚園を訪問し、巡回指導を行うことができた。

（３）別科日本語研修課程

新型コロナウイルス感染も終息の傾向となり、出入国の制限も徐々に緩和され、通常の授業が行われるようになった。その結果、入国ができずに本国においてオンラインで受講していた学生や、休学扱いとなっていた留学生も対面で受講することとなった。また、昨年オンラインで受け入れた、韓国の「グローバル現場実習日本語・職場研修プログラム」も令和４年は、直接、本学のキャンパスにおいて対面で開講し、実際に日本の学生生活や日本文化に触れてもらうことができた。

（4）国際交流、留学生受け入れ

①留学生募集【国外】

コロナ感染の終息傾向に伴い、出入国制限が緩和されたため、令和４年度はベトナムにおける募集活動を再開した。具体的には、ベトナムの大学や高校と直接連携することにより、大学内に日本語センターを開設し（３か月限定）、日本留学及び本学への関心を促した。今後は、具体的な協定を締結するとともに交流を深めていきたいと考えている。

②留学生募集【国内】

日本国内の募集活動については、主に各学科の教員が、福岡市内の日本語学校や専門学校に訪問し、入学に結びついている。

※留学生の入学状況（令和４年度実績）

・正規生

	春　季	秋　季
中　　国	１０名	２名
韓　　国	１名	０名
ベ　ト　ナ　ム	２６名	０名
ネ　パ　ー　ル	５５名	０名
イ　　ン　　ド	１名	０名
台　　湾	１名	０名

・別科生

	春　季	秋　季
中　　国	６名	０名
ベ　ト　ナ　ム	６名	６名
ネ　パ　ー　ル	０名	１０名

③留学生募集協定業者

留学生受け入れ手段として、学校や仲介業者との協定を締結し、現地での学生募集に留まらず、訪問の際の手伝い等を依頼している。今後は、今まで実績がなかった仲介業者を開拓し、コロナ感染終息後の募集活動に備えたいと考える。

令和４年度までに協定締結を行った学校・業者は以下のとおりである。

<u>協定等の締結を行っている学校</u>

（中国）

・白城師範学院
・煙台大学文経学院
・日中合作山東国際文化交流学院
・上海滬北外国語進修学校
・大連報徳言語培訓学校
・中国海洋大学国政際教育学院
・江蘇泰州畜牧獣醫職業技術学院経済貿易系
・上海中僑職業技術学院
・江蘇省興洪中学
・華中科技大学武昌分校
・黄岡市外国語学校
・塩城工学院
・中国黒龍江省社会科学院職工大学
・瀋陽新幹線外国語学校

・上海思博職業技術学院
・上海工商職業技術学院
・上海震東商務進修学院
・長春市福祉培訓学校
・江蘇農林職業技術学院
・東北師範大学
・武漢唐人職業培訓学校
・畜牧獣医職業技術学院
・長安株式会社

(ベトナム)

・JAPANESE LANGUAGE CENTER NUI TRUC（テュイ日本語学校）
・TOKYO JAPANESE LANGUAGE SCHOOL（東京日本語学校）
・VIETNAM NATIONAL UNIVERCITY,HONOY
・PHAN DINH PHUNG 高校
・THANH TAY 大学
・Ngo Quyen 高等学校
・Dai Nam 大学
・PHAN THIET 大学

<u>協定等の締結をおこなっている業者</u>

(中国)

・上海蘇徳科技発展有限公司
・重慶瑞潮出国商務諮詢有限公司
・武漢市国際交流サービスセンター
・青島海亀ツーリズム企画所
・中関村衆恒創新創業情報化発展研究所

(ベトナム)

・APEX 文化教育開発株式会社
・JTC
・QUOC DINH 教育投資株式会社
・VIET ANH 留学諮問センター
・さくらーＶＴ日本留学センター
・VLEARNING 外国語教育訓練有限会社
・VIETNAM NATIONAL CO,LTD
・SiPM Group SiPM Education
・VIASERCO
・NAM HAM
・Hanoi Foreign Language Center
・KCS Viet Nam
・Viet Star
・ATLANTIC INTERNATIONAL EDUCATION TRAINING COMPANY
・HAVICO INTERNATIONAL,JSC
・PHAN THIET 大学人材開発ンター

(ネパール)

・A ONE INTERNATIONAL

(日本)

・株式会社 DLC･GB コンサルティング
・株式会社チームワールド
・株式会社ＪＶＢ

・株式会社ＨＡＫＵ
・Zero One Limited

（４）管理

①認証評価に向けた自己点検・評価活動の実施

認証評価の目的は、個々の短期大学の教育の質保証とその主体的な改革・改善を通じて、自らの教育研究活動の継続的な質保証を実現することを支援するところにある。本学は、本年度３回目の認証評価を受審した。（自己点検・評価報告書を６月末までに提出し、１０月にかけて書面調査および訪問調査が実施された。）１２月までに評価結果の内示があり、最終的に３月に機関別評価『適格』の決定・通知があった。

②教育専門能力の向上（ＦＤ、ＳＤの実施）

教育内容の改善、教育職員の相互研鑽、授業内容の充実、質保証等を図るため職員の職能開発を中心とした組織的な取組ＦＤ、ＳＤを実施した。

③経営改善計画に係る進捗状況の提出

令和元年１０月に実施された学校法人運営調査委員による調査結果に基づき、『経営改善計画（令和２年度～６年度・５ヵ年）』を策定し、令和２年１０月に文部科学省へ提出した。この計画については、計画の進捗状況等を毎年報告することになっており、令和３年度の財務状況および４年度学生募集の状況等、進捗をとりまとめて３年目の報告（令和４年７月）を行った。

④高等教育無償化に係る機関申請

令和３年度決算を受けて、令和４年６月末までに文部科学省に対して機関申請を行った。確認通知・公表等については８月下旬以降随時行われ、令和５年度入学生の受入れを開始した。

（５）その他の事業

◎研究活動

各学科、別紙のとおり研究活動を行った。

令和４年度の研究紀要をまとめた「西日本短期大学　総合学術研究論集　第 13 号」を令和５年３月に発行した。

（６）施設・設備関係

令和４年度に整備を行った主なものは、別添（財務部）事業報告書のとおり。

２．西日本短期大学附属高等学校

（１）教育事業

〇公務員講座授業

令和４年度より西日本短期大学ビジネス法学科の講師を招き、公務員試験に特化した授業を展開。公務員試験に直結する専門的な授業を、週２コマ実施した。

（２）学生募集事業

学生募集事業について以下のとおり計画し、実行することができた。ただし、⑷については年度内に完了できなかったため、次年度に完成するよう計画を実行している。

⑴　体験入学、各種説明会（中学校 PTA・中学校・塾）、出前講座・授業、個別入試相談会
⑵　中学校・塾訪問及び情報交換会
⑶　西短バッグ・クリアファイル・募集専用封筒の作成
⑷　学校紹介 DVD 作成

（３）催事関係

以下のとおり計画し、⑸を除く事業を実施することができた。

⑴　私学展
⑵　学校イメージアップ活動
⑶　中学校での勉強会・面接対策会
⑷　入試合格者用問題集（専願ノート）＋お勧め読書本紹介
⑸　生徒募集成功校視察研修
⑹　中学校との合同練習会（吹奏楽部）

（４）施設・設備関係

令和４年度に整備を行った主なものは次のとおり。

⑴　吹奏楽部楽器購入
⑵　校内教職員用電話機交換

Ⅲ. 財務の概要

⑴ 事業活動収支の状況について

単位：千円

科目			令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動収支	事業活動収入	学生生徒等納付金	750,081	707,892	669,329
		手数料	11,300	10,381	10,487
		寄付金（A）	6,484	13,134	24,824
		経常費補助金	299,873	260,691	279,390
		付随事業収入	7,227	5,585	7,710
		雑収入	73,524	12,788	27,107
		教育活動収入計	1,148,489	1,010,471	1,018,847
	事業活動支出	人件費	733,600	666,936	666,614
		教育研経費	416,662	440,480	464,223
		うち、減価償	134,961	137,396	135,644
		管理経費	123,344	122,031	122,359
		うち、減価償	13,173	12,669	13,035
		徴収不能額	0	0	0
		教育活動支出計	1,273,606	1,229,447	1,253,196
		教育活動収支差額	△ 125,117	△ 218,976	△ 234,349
教育活動外収支	事業活動収入	受取利息・配当金	24	22	23
		その他の教育活動外収入	20,000	891,135	0
		教育活動外収入計	20,024	891,157	23
	事業活動支出	借入金等利息	4,977	3,543	0
		その他の教育活動外支出		0	0
		教育活動外支出計	4,977	3,543	0
	教育活動外収支差額		15,047	887,614	23
経常収支差額			△ 110,070	668,638	△ 234,326
特別収支	事業活動収入	資産売却差額	0	459	880
		その他の特別収入	15,511	14,793	20,595
		特別収入計	15,511	15,252	21,475
	事業活動支出	資産処分差額	145	2,280	78
		その他の特別支出	3	0	681
		特別支出計	148	2,280	759
	特別収支差額		15,363	12,972	20,716
基本金組入前当年度収支差額			△ 94,707	681,610	△ 213,610
基本金組入額合計			△ 22,796	△ 57,183	△ 54,041
当年度収支差額			△ 117,503	624,427	△ 267,651
前年度繰越収支差額			△ 4,348,877	△ 4,466,380	△ 3,841,953
基本金取崩額			0	0	0
翌年度繰越収支差額			△ 4,466,380	△ 3,841,953	△ 4,109,604

（参考）

事業活動収入計	1,184,024	1,916,880	1,040,345
事業活動支出計	1,278,731	1,235,270	1,253,955

⑵ 貸借対照表

単位:千円

資産の部				負債・基本金及び繰越収支差額の部			
科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
固定資産	3,027,331	3,018,411	2,920,305	負債	1,127,075	804,371	735,498
有形固定資産	2,966,281	2,947,308	2,852,010	固定負債	259,973	310,624	295,916
特定資産	43,565	43,565	43,566	流動負債	867,102	493,747	439,582
その他固定資産	17,485	27,538	24,729	基本金	6,775,207	6,832,390	6,886,431
流動資産	408,572	776,399	592,023	第1号基本金	6,671,207	6,728,390	6,782,431
合計	3,435,903	3,794,810	3,512,328	第4号基本金	104,000	104,000	104,000
				繰越収支差額	△ 4,466,379	△ 3,841,950	△ 4,109,601
				翌年度収支差額	△ 4,466,379	△ 3,841,950	△ 4,109,601
				合計	3,435,903	3,794,811	3,512,328
				減価償却累計額	3,628,295	3,746,657	4,011,585
				基本金未組入額	58,970	45,021	91,695

⑶ 財務比率表

＜貸借対照表＞

比率	令和2年度	令和3年度	令和4年度
基本金比率	99.14%	99.35%	98.69%
固定長期適合率	117.8%	91.4%	95.0%
流動比率	47.1%	157.2%	134.7%
前受金保有率	121.8%	117.7%	
負債率	48.8%	26.9%	26.5%
基本金実質組入率	33.8%	43.5%	39.8%

＜事業活動収支計算書＞

比率	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費比率	62.0%	34.8%	64.1%
教育研究費比率	35.2%	23.0%	44.6%
消費支出比率	108.0%	64.4%	120.5%
経常経費依存率	63.4%	36.9%	64.3%
補助金比率	25.3%	13.6%	26.9%
基本金組入率	1.9%	3.0%	5.2%

⑷ 収益事業

・貸借対照表

単位:千円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
流動資産	28,774	0	0
固定資産	651,201	0	0
資産合計	679,975	0	0
流動負債	23,300	0	0
固定負債	585,240	0	0
負債合計	608,540	0	0
純資産合計	71,435	0	0
負債・純資産合計	679,975	0	0

・損益計算書

単位:千円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
売上高	84,645	50,082	0
売上原価			
販売管理費	58,026	1,008,422	0
営業外損益	△ 6,355	△ 3,283	0
特別損益		890,259	0
当期純損益	20,264	△ 71,364	0

資　　料 ①

各学科、各部署における令和４年度の事業報告書

令和４年度 ビジネス法学科 事業報告

教育事業計画

令和４年度の当該学科の教育実施方針	備　考
⑴　学びの見える化： 　カリキュラムポリシー（CP）・ディプロマポリシー（DP）に基づき、各科目の関連性を意識した履修指導を行う。希望進路に即して「身につけたい力」を定め、修得に向けて自ら学んでいける環境を整える。 ⑵　学びの共有化： 　学習成果を報告する場を設け、他の学生の学習状況から刺激を受けられるようにする。 ⑶　グループ活動の充実： 　キャリア演習はもちろん、クラス・ゼミナール単位でもグループワークを行う。人間関係を構築し、協働する力を身につけられる機会を増やす。 ⑷　表現力を身につける： 　グループワーク等で学んだことを発表する力、文書にする力を身につける。	
計画に対する実績および自己評価 ⑴　学びの見える化に関しては、希望進路に即した履修指導が丁寧にできたと思う。その結果、各自の希望に即した進路に結び付いてきている例が増えている。 ⑵　学びの共有化に関しては、キャリア演習、ゼミナール、卒業研究発表会などで実施 ⑶・⑷ 　グループ活動の充実に関しては、キャリア演習で、進路を見据えた業界研究及びその発表などを実施し、進路に関する意識を高め、コミュニケーション力を身につけるきっかけとなった。	
学生募集・広報につながる教育実施計画（低迷する入学者数を増やしていくためには、どうするのか具体的に記述してください。）	備　考
⑴　令和２年度まで、高校内進路ガイダンスは法学系、公務員系ばかりだったが、今後は経済・会計系のガイダンスにも対象を広げていく。 ⑵　SNS・ブログのコンテンツ力の向上を図る。また、学修ポートフォリオを活用した２年間の学びの流れ、卒業研究などを題材にした学びの内容の発信を行う。 ⑶　オープンキャンパスでは、これまでおおむね来場者に好評だった法律クイズを継続するとともに、学生主体で行うコンテンツを中心に据える。 ⑷　出前講義のチラシを作成し、高校での出前講義の機会を増やし、ビジネス法学科の知名度を高めていく。	
計画に対する実績および自己評価 計画どおりの実施を行った。高校内進路ガイダンスは、やはり法律系での依頼が多く、ビジネス系の依頼は少なかったが、教員による高校訪問では、ビジネス系の説明を積極的に行い、その効果が表れているという実感がある。出前講義チラシに関しては、高校生にも興味深い内容で作成したが、高校側からの出前講義の依頼はなかった。今後の課題としたい。	
生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方について具体的に記述してください。	備　考
⑴　学生の休学・退学防止 　プレップセミナーを一部ゼミ化して行ったり、学生交流イベントを実施したりしつつ、学生同士のつながりを強化して学生の孤立化を防ぎ、退学防止につなげる。２回連続して欠席している学生については、担当教員は早めに連絡をとり、必要な指導等を行う。 ⑵　資格取得の推奨および支援 　入学直後より取得を推奨する資格の案内をする。１年次に何かしらの資格を取ることを強く推奨していく。簿記やFP、秘書検定など、授業科目として設置されている資格につい	

ては、授業を通じて受験を奨励し合格を目指す。必要に応じて対策講座を実施し、資格によっては外部主催の模試や大会等に参加する。さらに、令和３年度に設立した「資格・検定奨励金制度」を活用し、資格取得の支援を行う。	
計画に対する実績および自己評価 ⑴、⑵ともに、おおむね予定通り実施できた。早めの人間関係作りは新入生研修から入学後のガイダンスなどが効果的であった。資格取得に関しても、１年生の後半から２年生にかけて、多くの学生が資格にチャレンジし成果をあげている。対策講座に関しては、夏休み、春休みで実施しているが、学生の帰省、自動車免許の取得などと重なり、参加者数が伸びなかった。時期の見直しを含め検討したい。	
社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について（テーマ・講師・日程等を具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマで実施するのか具体的に記述してください。）	備　　考
⑴　外部団体による寄付講座の実施 令和４年度も引き続き福岡中部法人会当仁支部による「租税講座」と、福岡県司法書士会福岡西支部による「青少年法律講座」を実施する。 ⑵　起業体験者の話を聞く 実際に起業した方を招き、地域・社会に貢献する手立てとしての起業について考える機会を設けたい。	
計画に対する実績および自己評価 ⑴　寄付講座に関しては、福岡県司法書士会福岡西支部による「青少年法律講座」、日本商工会議所、日商検定キャラバン隊による「検定試験」について、イオンクレジットサービスによる「金融教育授業」を実施した。 ⑵　コロナ禍の中で、「起業体験者の話を聞く」は実施できなかった。学生の中には将来的に起業したい、家業を継ぎ経営していきたいとの希望を持っている学生もいるので、実施の方向を模索したい。	
進路（就職）支援実施計画（来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載してください。）	備　　考
⑴　留学生に対する就職支援は、学生支援室、別科、国際交流・留学生支援室との連携を図って支援対策活動を進めていく。また、これまでと同様、「日本語能力試験」受験・合格指導を徹底強化し、日本語能力の向上を目指していく。日本人の学生と同様、リクナビ、マイナビなどを利用して留学生を積極的に採用する企業を中心に企業研究を行い、モチベーションを高めていく。 ⑵　コロナ禍の影響を払しょくできない現状にあっては、昨年にもまして、より手厚い就活支援や個別指導を行っていく必要がある。その際、特に、①日々変化する社会情勢を把握して学生にタイムリーな就活情報を提供するとともに、②リモート就活のための具体的対応策を講じるなどを進めていく。 ⑶　キャリアの授業等を通して、企業研究を行い、就職活動に必要なエントリーシートの作成について指導していく。	
計画に対する実績および自己評価 ⑴　留学生に対する就職支援については、個別指導で就職につながる例も増えてきているが、留学生を積極的に採用する企業を調べることは困難であった。今後、別科、学生支援課等の協力を仰いで調査を進めていきたい。 ⑵、⑶については、手厚い個別的な指導方法が確立されてきているという実感がある。最終的に、本人の納得できる、満足できる進路の実現に向けて努力を続けていきたい。	
特別教育事業実施計画（教育ＧＰ等に向けた取組やプログラムの策定等について、構想があれば具体的に記述してください。）	備　　考
⑴　学修ポートフォリオの活用を強化し、２年間の学びを随時記録、PDCA サイクルで成長を確認できる仕組みを構築する。 ⑵　これまでのキャリア演習での活用が主だった学修ポートフォリオを、キャリア演習だけでなく個別の学生の進路実現に向けたロードマップ確認のためのツールとして活用していく。	

計画に対する実績および自己評価 学修ポートフォリオに関しては、グーグルフォームを利用した課題、記録の提出を定期的に課することによって、一人一人の成長、取組みの見える化に取り組んだ。ポートフォリオを活かし進路指導、就職指導ができたという実感がある。	
授業改善実施計画（前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。）	備　　考
⑴　今までの成果をもとに、４年度は主に「プレップセミナー」で文章力、思考力をみにつけるよう指導し、それをもとに高等教育における基本的な学習方法を指導し「学びのプログラム」を完成させていく。 ⑵　「学科で身につけさせたい力」を確立し，各科目に反映させる仕組みを整える。具体的には，各科目の到達目標と CP および DP との関連性を明確にする。また，各科目の小テストや課題も，学科で身につけさせたい力を得られるものとなるようにする。 ⑶　キャリア系の科目を就職活動と連動し、１年修了時には、就職活動の基礎を完成させていきたい。	
計画に対する実績および自己評価 ⑴　「プレップセミナー」を基軸に、文章力をつけるために、コメントペーパー、課題を定期的に課し、振り返りを行うことによって基礎力の向上に努めた。 ⑵、⑶については、学科で身につけさせたい力を示し、各科目との関連性を明確に伝える機会を設け、学科での学びの意義を明確にすることによって、向学心を高めるよう工夫した。さらに、キャリア系の科目を就職活動と連動させることによって、いち早い就職への取組みを促し、効果をあげている。	

研究事業計画（学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画）

事業計画名称	事　業　計　画　概　要	備　考
な　し		
計画に対する実績および自己評価 なし		

社会活動計画

活　動　概　要	備　考
⑴　起業家育成支援事業（中小企業庁）への参加 起業経験者の講演を聴講する、ワークショップに参加するなど、ビジネスの基本である「人々のニーズに応える」ことについて学び、実践する機会を提供したい。 ⑵　「西短マルシェ」の実施 文化祭（福浜祭）において、模擬店（商品およびサービス）を企画し、利益を上げる経験を通じてビジネスを実践する機会を提供する。 ⑶　ワークショップ演習を活用し、自治体や企業と連携しての課題の取組みを行っていく。さらに、文化祭において、成果を発表する機会を設ける。	
計画に対する実績および自己評価 ⑴　起業家育成支援事業への参加は、コロナ禍の影響で実施できなかった。 ⑵　「西短マルシェ」の実施に関しては、企画通り実施できた。 ⑶　ワークショップ演習を活用し、自治体や企業と連携して、課題の取組みを行った。この取組みを就職指導に活かし、成果をあげつつある。	

令和４年度 緑地環境学科 事業報告

教育事業計画

令和４年度の当該学科の教育実施方針	備　考
自然との共生を図り、伝統的造園文化・技術を継承し快適な生活環境を創造できる人材の育成や社会情勢の変化及び造園業界の要求に応えられる人材を育成するため、学生一人ひとりに対して、「職業及び全人教育」をきめ細かく行う。 令和３年度に引き続き、ウィズコロナの時代の中でインターネット・SNS も活用しながら学生の安全を確保しながら教育を進める。 また、豊富で多様な実習や演習をできた・終わった完結することなく、学生自身が学習効果を振り返り、就職活動にも活用できる本学科独自のプロセス可視型のポートフォリオを充実させる。さらに、造園業界と連携した研修をオンラインも含め年３回程度実施し、企業や社会が求める造園技術を修得させる。最終的に２月に開催する学びの発表会ではゼミナールの発表のほかに、必修科目、実習演習科目などの成果を発表し、高度な造園・ランドスケープ教育の質の担保を行う。	
計画に対する実績および自己評価 きめ細やかな「職業及び全人教育」については実施した。 今年度はコロナ感染対策を充分に行い、安全を確保しながら対面で教育をすすめることができた。概ね後半はコロナ感染が落ち着いたが、google classroom なども並行して活用し教育を進めた。 「造園業界と連携した研修」については、４月６月にみどりの研修会Ⅰを開催、９月には３年ぶりに福岡市造園建設業協会、ランドスケープコンサルタンツ協会、福岡県造園協会と協働してみどりの研修会Ⅱを開催し学生と合わせ 100 名を超える参加者があり、学生は社会で活躍する専門家・卒業生と様々な交流が出来た。２月の学びの発表会は午前午後の２部制にて完全対面で実施し、ゼミナールの活動発表を口頭で、実習や演習の成果をポスターやポートフォリオとして展示を行った。中部・関西からも企業の参加があり、行政、企業、卒業生、保護者、高校の教員など様々な方に対して、豊富な実習の学びの成果を発表することで高度な造園・ランドスケープ教育の質の担保を行った。 「ポートフォリオの充実」については、ポートフォリオデザイン等の講義他、ゼミナールでのサポートを行う等充実させたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり授業間連携による制作が十分と言えなかった。コロナ禍のなか、授業を最小限に履修する学生が増えたこと、求人や就職対策の充実、ポートフォリオ室の PC が使用できないものが増えたなどの様々な理由で、ポートフォリオに力を入れる学生が減っていることがもんだ点として挙げられた。	
学生募集・広報につながる教育実施計画（低迷する入学者数を増やしていくためには、どうするのか具体的に記述してください。）	備　考
⑴　全国の卒業生へ、ゼミ・授業の学習成果、大学案内、学科紹介リーフレット等を送付し、現在の緑地環境学科を広報し、子弟、周囲の西短に興味を持つ高校生を紹介していただく。 ⑵　オープンキャンパス参加者を取りこぼさないように、参加者全員に「学科創設 50 周年記念誌」を配布し緑地環境学科を広く・深く知ってもらうと同時に、安心して入学できるようにする。 ⑶　農業系高校だけでなく普通高校からも入学しやすいように特待生制度を改正したので、普通高校へも積極的に訪問し学生募集を進める。 ⑷　全国から学生を広く募るため、全国デザインコンクールや学会など高校生との接点もある大会や設計競技などで成果を出す。 ⑸　県内、九州内、全国の高校、特に教員の専門性が活かせる農業・工業系の高校・学科での出前授業を積極的に行い、直接高校生に本学の教育について話せる場所を確保していく。 ⑹　女性向けパンフレットを作成し広報しているが、昨年度より多くの女子高や普通高校へ訪問し広報する。	

⑺　学生各自が学習した成果をまとめたポートフォリオを作成して、高校訪問等の際に活用する。 ⑻　高大連携や体験授業、進路ガイダンスなどで高校を訪れる際には、実施する高校を卒業した本学学生を同行し積極的に進める。	

計画に対する実績および自己評価

①農業高校を中心に高校の先生へ、大学案内や学科紹介リーフレット、ゼミナールの活動等を送付し、現在の緑地環境学科の広報を行い、令和５年度は17名が農業高校より入学した。

②オープンキャンパス参加者全員に「学科創設 50 周年記念誌」を配布し緑地環境学科の歴史や取組を周知した。

③募集期の９月まで新型コロナウイルス感染拡大の影響もまだ根強く、普通高校へ十分な訪問や案内ができなかった。

④全国デザインコンクールでは大学生部門で入選が２作品（大学生部門の入選は４年度は９作品）であった。令和４年度まで10年連続して入選し、認知度が上がっており、今年は茨城から本学でコンクールに入選したいと入学している。

⑤新型コロナウイルス感染拡大のなか、県外の高校で出前講義の数を充分に予定通り行うことができなかった。しかし出前講義や直接生徒に説明を行った高校からは、入学者があった（久留米筑水（対面講義）、四日市農芸（オンライン）、中部農林・南部農林（対面説明））。

⑥コロナウイルス感染拡大の影響で、女子高への訪問はほとんど行えていない。

⑦学生各自が学習した成果をまとめたポートフォリオを作成して、高校訪問等の際に活用した。

⑧新型コロナウイルス感染防止から、本学学生を同行しての募集活動はできなかった。しかし２月に訪問した三重県立四日市農芸高校では帰省する学生を伴って、講義を行いたいへん好評であった。

＊以上のとおりで、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、計画通りにできないものも多く、十分成果が上がったとは言えない。普通高校、女子高校へのアプローチが十分ではなかった。

生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方について具体的に記述してください。	備　　考
⑴　学生相談室を活用し、悩みを持った学生や発達障害、うつ病傾向の学生を把握しておく。教職員は情報を共有し、場合によっては保護者・本人・カウンセラーとの面談を定期的に行う。 ⑵　欠席が多い学生や、単位を落としている学生には積極的に声を掛ける。改善されない場合、早い段階で保護者への連絡を行うなどして通学を促す。 ⑶　樹木鑑定能力を高めるために、二丈キャンパスでの実地研修、押し葉標本制作、年２回の鑑定試験、以上３項目を行い、一定レベルの鑑定能力をもたせる。 ⑷　国家試験である施工管理技術検定２級（造園・土木）の受検を奨励し、受験対策のための授業を実施し学科合格を目指す。 ⑸　技能検定２級３級（造園）の受検を奨励し、３級については本学主催の予備講習を行う。同課題に実習でも取り組み合格を目指す。 ⑹　製図ツールであるCADをコンピューター実習の授業に組み込み、CAD検定の対策講座を学内で開催し、全員が受検すると同時に合格率の向上につなげる。	

計画に対する実績および自己評価

①学科会議において毎回学生情報の共有を行なった。担当教員の対応については学科内の総意で進めた。UPI調査により回答に問題のある学生について、カウンセラーがメール等で対応した。改善につながったケースもあるが、発達障害等の検査が必要とみられる学生もおり、引き続き保護者も含めた対応が続く。相談室が対応する学生については、担当教員とカウンセラーの情報の共有のもと対応に当たった。なかには、就労支援事業者との連携も行い、学生の卒業後の進路についてきめ細かく連携しながら進めた。

②担任の学生への早めの連絡、親への対応を行ったが、２名が必修科目の単位認定が叶わなかった。引き続き２年生での単位履修、その後の授業態度について注視していく。欠席が多い学生において、学業についていけないという理由が散見される。これまで以上に科目担当教員のきめ細かい配慮が求められている。

③樹木鑑定能力向上のために写真での学習を取り入れて自宅でも学習ができるようにした。樹木鑑定能力向上

のため、年２回の鑑定試験を行った。概ね高得点を取得しているが、やはり数名の学生の理解が進まない現状がある。要因としてパソコンスキル不足による学習の遅延が影響しており、スキルリテラシーに二極化があり対応が求められる。

④国家資格取得のための予備講習の充実により学科合格は一定の成果を得ている。２級造園施工管理技術検定一次試験では、23 名中 16 名（合格率 70%）、２級土木施工管理技術検定一次試験では、25 名中 22 名（合格率 88%）であった。企業からの要望もあり、今後も就職に有利となる国家資格取得を奨励していく。

⑤技能検定２級３級（造園）の受検を奨励し、３級については本学主催の予備講習を実施した。２級の合格者数は 14 名で合格率は 88%、３級合格者数は 14 名で合格率は 82%であった。昨年をやや上回り成果を上げている。

⑥CAD の合格率を上げるために事前対策講座を行った。受験者数は 32 名中 14 名が合格し合格率は 44%であった。合格率は昨年と比べて倍増した。例年対策講座を欠席する学生がおり、対策日の日程調整を検討する。

社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について（テーマ・講師・日程等を具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマで実施するのか具体的に記述してください。）	備　　考
⑴　「環境ボランティア演習」の一環としての地元唐人町商店街・福浜小学校区における「エコ&緑の体験教室」（講師:本学教員および学生／植物リース作り教室 12 月） ⑵　世界で活躍する造園家・ランドスケープアーキテクトで客員教授内山貞文氏の公開講座を企画する。 ⑶　若年層の市民を対象とした探訪エコツアー「自然と人の共生を考える」（山本）など「みどりの環境」に関する教育啓発活動を積極的に実施する。 ⑷　日本造園学会九州支部、日本造園建設業協会、ランドスケープコンサルタンツ協会、福岡市造園建設業協会、日本造園組合連会などと連携したより専門的な勉強会や講演会の企画を行う。 ⑸　４月、９月に企業、行政、大学と「造園・自然環境・園芸の仕事・職能」について考える「みどりの研修会Ⅰ・Ⅱ」を開催する。 ⑹　２月には学生のまとめの発表会である学びの発表会をオンラインも含め開催し、一般に公開する。 ⑺　放課後に造園・ランドスケープの専門家を招いた勉強会を学生と定期的に開催（令和４年度は５回程度を予定）し公開する。 ⑻　テーマ：自然レベル調査隊によるアイランドシティー中央公園の調査 講　師：緑地環境学科　宮島淳二＋ゼミ学生 日　程：令和４年４月 16 日、５月７日、５月 21 日、６月４日、７月２日、 7 月 16 日、8 月 6 日、9 月 3 日、10 月 1 日、10 月 15 日、 11 月（発表会：期日は未定） 調査員は地元小学校３年生～６年生、保護者同伴、10 組程度を予定。	

<u>計画に対する実績および自己評価</u>

⑴　12 月に唐人町商店街においてリース体験を実施した。二丈キャンパスにある植物を使用し、植物を最後まで使い切るエコ＆緑の体験活動とした。２月に、ロックガーデンを作庭し、生徒とともに植栽を行った。商店街においても中学校においても非常に好評であった。次年度は是非二丈キャンパスを訪れたい、次年度も校庭の環境改善をお願いしたいと依頼を受けた。

⑵　3 月 26 日(日)に客員教授の内山貞文氏及び、アメリカポートランド市環境局長のドーン内山氏による特別講義を行い、一般にも公開し、年度末にも関わらず多くの業界および卒業生が参加した。

⑶　二丈キャンパスの近隣のフリースクールの生徒を対象に、二丈キャンパスにあるコニファーや木の実などの採集をとおして、冬の木々の様子や木によって異なる性質などの説明を行い、採集後はリースを製作してもらった。子どもたちは、自然あふれる二丈キャンパスで学生の説明を聞きながら採集することが楽しかったと感想を述べていた。

⑷　９月から 12 月にかけて遠隔・対面の併用で日本造園学会九州支部において学生交流企画を実施した。九州大学・東京農業大学・南九州大学の学生とワークショップを行い、12 月の学会で発表を行った。

⑸　４月の「みどりの研修会Ⅰ」では、17 社、６月の「みどりの研修会Ⅰ」では 11 社、９月の「みどりの研修会Ⅱ」では 25 社が参加した。
⑹　２月 12 日に学びの発表会 2022 を対面で開催し、行政・業界・保護者・卒業生・高校教員から多くの参加者があった。
⑺　放課後や休日を利用してオンライン３回・対面２回、社会で活躍する専門家を招き学生の勉強会を行った（山田耕三氏／花豊造園／日本庭園の仕事、金澤弓子氏／東京農大准教授／まちと植物、片木孝子氏／空間創建／女性のキャリアデザイン、徳永哲氏／ランドスケープむら／プレゼンテーション、卜部仁美氏／アンドグリーン／宿根花壇）。
⑻　アイランドシティ中央公園指定管理者の小山千緑園・ＦＭ福岡共同事業体との協力により、宮島ゼミナールの教員・学生が指導して公募した地元小学生４年生～６年生８名によるチョウ類による公園内の自然環境レベル調査を行った。調査は４月 16 日～10 月１日の間に 10 回実施し、調査した結果は 10 月 15 日に模造紙８枚にまとめて、11 月に開催された照葉地域の文化祭で発表した。参加した生徒や父兄からは好評であった。

進路（就職）支援実施計画（来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載してください。）	備　　考
⑴　一年生では、「キャリアデザイン」（前期）や「ポートフォリオデザイン」（後期）で働くことの意味や職業に関する講義を行い、明確な目標設定とそれに向けた課題への挑戦を促す。ポートフォリオを作ることで、現状把握と不足しているものを認識し、自ら課題を見つける能力を身につけるとともに、就職活動、編入試験の際、プレゼンテーション資料として活用する、業界や同窓会など、外部の方に教育に参加してもらうことで、社会に即した教育を行っていく。 ⑵　企業での実習やインターンシップ制度を活用し、学生に仕事内容への理解を進めるとともに、自然環境分野では各県が実施する林業関係の研修会に参加させるなど、学生と業界との結びつけを推進する。 ⑶　公務員希望の学生に対しては、公務員試験情報を収集し、各種試験対策を指導するとともにビジネス法学科が開催する公務員対策講座を受講させる等支援する。 ⑷　より社会人として、専門家としての素養や意識を高めるために、業界と連携した授業や取組を行う。 ⑸　業界関係者を取り込んだ研修会や会社説明会を開催する。令和４年度は４月に企業の仕事を紹介する緑の研修会Ⅰ、９月には福岡市造園建設業協会・ランドスケープコンサルタンツ協会と共同で主催する緑の研修会Ⅱ（状況によってはオンラインを含む）、２月には学生の活動の報告を行う学びの発表会を開催し進路の支援につなげる。 ⑹　自然環境デザインコース、ガーデンデザインコース独自の就職のために、森林分野や流通分野などの新規開拓を行う。	

計画に対する実績および自己評価

⑴　学生たちは、講義で卒業生や業界で働く社会人の話を聞き、仕事に対する考えを持つことができた。またすべての学生がポートフォリオの作成に取り込んだ。
⑵　活動非営利活動法人はかた夢松原の会主催の植樹に参加し、学生と業界のつながりを深めた。新型コロナ感染症の影響もあり林業関係のイベントも行われず、実行には至らなかった。今後、検討していきたい。
⑶　キャリアデザインの授業にてビジネス法学科の岸田先生に公務員の仕事内容の講義をしていただき、公務員の理解の向上に努めた。また２名が公務員に合格し成果をあげた。
⑷　様々な研修会の開催をはじめ、全国都市緑化フェア、国体道路の花壇整備や福岡市が主催する一人一花スプリングフェス、福岡市植物園での樹木調査などを通して、業界と連携した取り組みを行うことができた。
⑸　令和４年度の企業説明会（みどりの研修会Ⅰ）は２年生を対象に４月と６月の２回行い、それぞれ 17 社、11 社参加した。研修会（みどりの研修会Ⅱ）では、１年生、２年生全員が参加し、企業 25 社が参加した。９月には３年ぶりにふくおかみどりの研修会（みどりの研修会Ⅱ）を開催し、100 名を超える参加者があった。２月には学びの発表会を開催し、進路の支援を行った。
⑹　企業説明会としてみどりの研修会Ⅰに山口県農林水産部森林企画課から参加してもらい、森林・林業関連の仕事の紹介をしてもらったが、就職には至らなかった。

ガーデンデザインコースの学生、ゼミ生を誘って、生花店、花苗の生産者、樹木育成者、花市場、苗もの店と生産から消費まで一連の理解を深める学習を行った。また、花壇などのデザインを主たる業務とする会社、花苗の生産も行う施工会社、園芸を通して交流を深める部門をもつ商社など、新たな会社の開拓を行い、求人票も提出してもらった。その中から見学に行ったり、就職を決めたりする学生がいた。

特別教育事業実施計画（教育ＧＰ等に向けた取組やプログラムの策定等について、構想があれば具体的に記述してください。）	備　　考
⑴　福岡市立こども病院、地元小学校が担当する・幼稚園・福祉施設との連携を強化した「造園、園芸、環境教育、福祉」に連なる特別教育を実施する（出前授業など）。 ⑵　二丈キャンパスや地域社会での豊富で多様な実習・演習を、写真などを活用して、そのプロセスをまとめる「プロセス可視型ポートフォリオ」の作成の実施	

計画に対する実績および自己評価

⑴　新型コロナ感染症の感染拡大予防のため、出前授業等は行えなかったが、高齢者福祉施設と連携し、園芸福祉の知見を活かし、高齢者と学生や地域の人々との交流が可能な園芸福祉ガーデンを作庭した。
また、近隣の中学校と連携し、校庭に休憩スペースを作庭した。

⑵　１，２年生全員が、授業内の実習や演習などのプロセスや成果をまとめポートフォリオを作成し、学外に向けた発表で展示を行った。

授業改善実施計画（前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。）	備　　考
⑴　成績評価にあてるレポート課題は期末の１か月前から告知し、試験の時期に集中しないようにする。 ⑵　測量・設計（CAD、デザイン系コンピューター実習含む）・施工・制作科目の成果品をポートフォリオ化し、就職活動に活用する。 ⑶　⑵のためにポートフォリオを想定した課題内容とする。	

計画に対する実績および自己評価

⑴　１年生の課題については一部を春休みの宿題とし、休み明けの提出とした。
　告知を早めても提出日前にならないと学生が取り組まない傾向があり、提出日を分散化しないと効果がないと考えられるので、その点を次年度の課題とする。

⑵　ポートフォリオの作成は定着したとみられるが、就職活動に活用できたのは１部の学生にとどまっているとみられるので次年度は会社訪問や面接に持参するよう推奨する。

⑶　成果品のポートフォリオ化ができる該当科目が増加した（環境設計演習Ⅰ（模型）、ガーデン管理演習）。

研究事業計画（学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画）

事業計画名称・事業計画概要		備　　考
１.環境指数を用いた自然環境評価の一般化について	チョウ類の環境指数（EI）を用いた公園等緑地の自然環境評価法を一般化するため、最小の調査回数及び時期、時間などをどこまで簡略化できるかについて検証する。	
２.九州沖縄のランドスケープ遺産に関取組する研究	九州沖縄のランドスケープ遺産の現状の把握と、活用に関するとりまとめに関して、日本造園学会九州支部ランドスケープ遺産グループと連携して共同研究を行う。	
３.森林環境税により実施された針広混交林化事業の検証	放置された人工林を針広混交林化する為、福岡県と共同で、過去に、強度の間伐を実施した林分の現況調査を実施し、針広混交林化が進んでいるか検証する。	

計画に対する実績および自己評価

１．　令和４年度を含め、４年間の調査データが蓄積されている。その結果、春～秋にかけて概ね10回程度実施すれば自然環境評価は可能ということがわかった。今後、さらに詳細を検討する必要がある。

２．　作製した写真集を活用して、九州各県であらたな取り組みを検討している。4 年度から風景づくりのレジ

ェンドにインタビューを行い、今回は由布院の風景づくりを先導してきた玉の湯の溝口薫平氏のインタビューを実施した。
３．福岡県との調整が進まないため、実施できなかった。

社会活動計画

活　動　概　要	備　考
（一財）日本造園修景協会評議員、（公財）福岡市緑のまちづくり協会評議員、公園管理運営士会九州支部顧問、国営海の中道海浜公園魅力推進協議会委員（国交省）、国営海の中道海浜公園松林再生・保全検討委員（国交省）、上人ヶ浜公園再整備及び別府海浜砂場改修事業に伴う事業者選定委員会委員（別府市）、 以上のような団体等の委員等として活動し、同団体等を支援し貢献する。	
国体道路の花壇修景プログラム／NPO 法人はかた夢松原の会、国土交通省福岡国道事務所との取り組み	
一般社団法人まほろば自然学校監事	
一人一花スプリングフェス（主催福岡市）への庭園・花壇の出展と高校造園系学科との協働での花壇出展／福岡市、行橋高校・久留米筑水高校・福岡農業高校との協働（予定）	
オープンキャンパスへのデモンストレーションガーデン出展	
ランドスケープコンサルタンツ協会九州支部若手勉強会への企画参加（学生含む）	
福岡市都市景観賞審査委員会委員、大牟田市景観審議委員会委員、大牟田市景観アドバイザー、福津市景観アドバイザー、福岡県技能検定委員、西公園再整備検討委員会委員、佐賀県営吉野ヶ里歴史公園官民連携検討会委員長、佐賀県立佐賀城公園および佐賀県立森林公園指定管理者候補者選定委員会委員長など	
二丈キャンパスを活用し、社団法人福岡市造園建設業協会、ランドスケープコンサルタンツ協会九州支部、福岡市と西短の学生及び教員での研修会を開催する	
福岡市植物園内モデルガーデンの制作管理など福岡市の緑化政策・推進担当セクションとの連携	
全国都市緑化くまもとフェア福岡市出展庭園の監修と制作指導	
全国都市緑化仙台フェア福岡市出展庭園の監修と制作指導	
特定非営利活動法人グリーンシティ福岡の理事として、市街地内の緑化や緑地・庭園の保全・活用に関するアドバイスを行う。	
樹木医としての活動を通して緑地の保全に貢献し、後続の人材を育成する。 大濠・西公園管理事務所（指定管理者）と連携し、公園内の樹木安全点検を学生の指導をしながら行う。	
（公財）福岡市緑のまちづくり協会主催「花とみどりのまちづくり賞」審査委員	
（一社）日本造園学会九州支部運営委員	
福岡市都市緑化推進行事実行委員会委員	
福岡県文化財保護審議会専門委員（天然記念物）	

<u>計画に対する実績および自己評価</u>

① すべて実施し支援した。
② NPO 法人はかた夢松原の会、国土交通省、地元住民、道路管理企業、卒業生など多くの主体と協働し実施した。新型コロナ対策もあり、回数を増やし分散して行った。
③ 花壇庭園の出展を行い、多くの方の見学もあり、大きな反響があった。
④ 中庭で庭園の制作を行い、全国造園デザインコンクールで受賞した。
⑤ 学生も意欲的に参加した。
⑥ すべて実施した。
⑦ コロナ対策を行い、福浜キャンパスで実施した。コロナ対策のため参加者の範囲を絞って開催したが、100

人を超える参加者があった。
⑧　実施した。
⑨　３月から５月開催された第38回全国都市緑化フェア「くまもと花博」では現地で学生を中心に庭園を制作出展した。
⑩　会場が東北と遠隔地だったため、現地での製作は行わず、福岡市と共同でワークショップを複数回開催し、計画設計、および庭園内に設置するオブジェを製作した。
⑪　ボランティア活動に関心のある学生に当団体を紹介した。
⑫　樹木医活動として大濠公園・西公園の樹木安全点検を本年度も学生と実施した。
⑬　「花とみどりのまちづくり賞」審査委員長を務めた。
⑭　12月の学会福岡大会を他大学・業界・行政・地元高校と連携して開催運営するなど実施した。また、9月-12月では学生間の交流企画を実施し、複数の大学の学生の交流も実施した。
⑮　実施した。10月に開催された福岡市の一人一花サミットの運営などに務めた。
実施した。

令和４年度 社会福祉学科 事業報告

教育事業計画

令和４年度の当該学科の教育実施方針
社会福祉学科では、専門的知識や確かな介護技術を身につけた「心と体のケアのスペシャリスト」の養成に重点を置いた介護福祉士教育を実施している。高齢者や障がい児・者の多様なニーズを理解し、人間の尊厳や個性を重視できる豊かな人間性を持つ、実践的能力を身につけた介護福祉士を養成する。 また、介護福祉に関する専門的な知識・技術を習得した「求められる介護福祉像」を目指し、その理念と社会的意義を理解できる力を持つリーダーとしての人材を養成する方針である。 さらに、社会福祉学科は留学生の養成にも７年前から力を入れており、地域の施設や病院等にも多くの留学生人材を輩出しているが、介護人材としてだけでなく留学生のリーダー的役割を担うことができている。本学科は日本人、留学生を問わず、スキルの高い教育方法でプロフェッショナルな介護福祉士の育成に尽力していく方針である。
計画に対する実績および自己評価 スキルの高い教育方法でプロフェッショナルな介護福祉士の育成に尽力していくために、全教員は各科目において、日本人学生や留学生の学習指導できるように絶えず自己研鑽し、自身の研究や研修に励み、質の高い教育を目指している。また学習や技術の評価基準を設け、15 回での評価を明らかにしている。 プロの介護福祉士としての考え方に重点を置き、チームマネジメントの講義では、リーダーシップやスーパービジョンなどの考え方や理論的根拠を教示している。２年間の中で非常に役に立っており、現場でのリーダー的役割ができる人材を多く輩出できている。
学生募集・広報につながる教育実施計画（低迷する入学者数を増やしていくためには、どうするのか具体的に記述してください。）
募集対策としては、基本的には高校訪問（担任の先生）、日本語学校訪問（国内生）、オープンキャンパスの充実、チラシ作成と配布による参加者の増加促進、高大連携活動や模擬授業、進路ガイダンスへの参加、出前授業実施、福祉体験講座等の実践教育の実施、国外生の募集により入学者数を増やす予定である。令和４年度は世界的なコロナの影響で、国内の留学生の減少が予想され、国内だけでなく国外からの留学生数を例年より増やす必要がある。日本人学生募集については高校訪問やホームページの内容提案、留学生については国内早期の募集開始、国外生については提携業者とのパートナーシップ強化により確実な学生募集活動にしていく方針である。 昨年同様ノーリフトケアに向けて介護ロボットなどの講義を積極的に導入する。日本人学生の獲得のため、将来の職業選択肢を広げることのできる医師事務補助者の資格獲得を加速させる。
計画に対する実績および自己評価 令和５年度の募集活動は、予測どおり日本人学生や国内留学生は少ない状態であったので、日本人学生は例年のように高校訪問では３年生の担任との面談、医師事務や介護保険事務の紹介、ガイダンスへの参加、留学生では国外生とインドネシアの国外生を積極的に募集し、合計 57 人の入学生を確保することができた。全体的には募集活動は４月から開始し予定どおりの人数確保、質の高い学生確保を行うことができた。
生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方について具体的に記述してください。
１．生活指導： 各学年少人数グループを教員１名が受け持つ担任制とし、総合演習を活用して個別面談を行うなど、日頃の生活指導にあたる。また学科教員間で報告・連絡・相談を密にして、教員個人で問題を抱え込まないよう、科内会議等で指導方針を検討する。特にメンタル面で課題を抱える学生に対しては、スクールカウンセラーによる学生相談室も活用する。また、留学生の抱える生活問題に対して相談に応じ対処法を検討することで、学習継続ができるよう支援を行う。 ２．学習指導・資格取得： 学習指導については、日本人にも留学生にも理解しやすい授業を行うため、専門用語にはルビを使用し、

動画や図などをおりこみ理解しやすい授業にするよう心がけている。今までに効果がみられたため今後とも継続していく。

国家試験対策については、留学生のみの日本語授業として介護の基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの科目を実施しているが、今後は日本語教育に国家試験対策の内容を増やしていく予定である。

また、介護福祉士ルートと卒業ルート（介護福祉士を取得しないルート）の２つのルートにカリキュラムを編成しているが、どちらを選択しても障害者スポーツ指導者、全国手話検定、医師事務補助者の資格を積極的に取得するよう奨励する。

３．実習指導：

実習指導室を中心として実習に関する準備・指導・事務手続きを実施する体制をとっている。各段階の実習指導が効率よく運ぶために、チームティーチング方式を取り入れ学生１人１人に対応した指導を実施する。実習巡回へは全教員が担当し、実習段階毎の到達目標や内容・記録方法等について共通認識をもてるようにする。実習に課題を抱える学生について、実習会議で情報を共有し学科内での統一した指導方針を検討する。

令和３年度後期より実習の日程変更と内容の変更、そしてカリキュラムの一部変更により、多職種連携、チームケアの内容を多くとりいれた実習になるよう施設に依頼と説明十分に行う。

１年１回開催の実習指導者を招く情報交換会では、施設同士の交流と本学科との連携構築を目指す。また、介護過程発表会では、学生の実習の成果を実習指導者等に観ていただき、学科の教育内容や学生の状況に関する理解を求め連携・協力体制の強化を図る。

計画に対する実績および自己評価

１．各学年少人数グループを教員１名が受け持つ担任制とし、総合演習を活用して個別面談を行うなど、日頃の生活指導にあたる。また学科教員間で報告・連絡・相談を密にして、教員個人で問題を抱え込まないよう、科内会議等で指導方針を決定することができた。留学生の抱える生活問題に対して相談に応じ対処法を検討することで、学習継続ができるよう支援を行った。

２．学習指導については、日本人にも留学生にも理解しやすい授業にするよう心がけ、各教員ともさらに分かりやすい授業を行うことができた。

国家試験対策については、留学生のみの日本語授業として介護の基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの科目を実施しているが、今後は別科の先生方による日本語教育を実施予定である。

介護福祉士としての専門性を高めるために、癒しのケアや芸術療法など人間性を豊かにできる授業にも力を入れている。

３．実習の各段階の実習指導が効率よく運ぶために、チームティーチング方式を取り入れ学生１人１人に対応した指導を実施した。実習巡回へは全教員が担当し、実習段階毎の到達目標や内容・記録方法等について共通認識をもてるようにする。実習に課題を抱える学生について、実習会議で情報を共有し学科内での統一した指導方針を検討する。

１年１回開催の情報交換会では、令和４年度はパネル形式によって実施したが、学びが多かったとたいへん好評であった。また、介護過程発表会では、学生の実習の成果を実習指導者等に観ていただき、学科の教育内容や学生の状況に関する理解を求め連携・協力体制の強化を図ることができた。

社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について（テーマ・講師・日程等を具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマで実施するのか具体的に記述してください。）

１．ボランティア（買い物支援）

中央区社会福祉協議会の買物支援ボランティア

社会福祉学科学生４名、自治会長・役員、団地の高齢者、社協職員

２．社会福祉法人　福岡市社会福祉協議会

中央区社協事務所

地域福祉ソーシャルワーカー（CSW）

生活支援コーディネーター

生活困窮の親子や学生、若者達のためのフードバンク支援の依頼があり、本学で保管場所を提供したいと考えているところである。

３．ご近所応援団　お話ボランティア

唐人町、福浜校区、本学近隣の地域支援ネットワーク。介護家族、傳照寺住職、唐人町商店街、民生委員、介護事業所や障害者施設の職員、社会福祉協議会、西日本短大、との連携・協力をしながら地域の助け合い活動を実施している。

・定例会

・高齢者とのお茶会・お話会

４．福岡市教育委員会　学生サポーター制度

特別支援学校、特別支援学級の児童・生徒の学習及び学校生活の補助（ボランティアの学生サポーター）として、本学社会福祉学科学生を派遣している。

５．MLAP music with all project

音楽活動による障害児者への生涯学習支援

文部科学省　障害児者の生涯学習支援のための実践研究事業に採択された。

福岡市手をつなぐ育成会保護者会　主催

コーディネーター　米倉裕子先生

連携協議会委員…西日本短大教員、福岡市教育委員会課長、博多区保健福祉課長、障害者施設の施設長、福岡市社会福祉協議会課長、障害者フレンドホーム職員など

本学学生（社会福祉会サークル部員）は、音楽療法活動のボランティアや、ボランティア養成講座、MLAP の活動報告会に参加。

コロナ以前は、定期的に土曜日などに、障害児の音楽活動ボランティアに参加。

６．公開講座、生涯学習、リカレント教育

手話サークル、社会福祉会サークルでのサークル活動（手話の練習、MLAP の報告会など）に、本学卒業生や地域の方が参加。また正規授業を科目履修として公開している。

計画に対する実績および自己評価

１．ボランティア（買い物支援）

中央区社会福祉協議会の買物支援ボランティア

社会福祉学科学生４名、自治会長・役員、団地の高齢者、社協職員については、コロナ感染拡大防止のため実施は１回のみであった

２．社会福祉法人　福岡市社会福祉協議会

中央区社協事務所

地域福祉ソーシャルワーカー（CSW）

生活支援コーディネーター

生活困窮の親子や学生、若者達のためのフードバンク支援の依頼があり、本学で保管場所を提供したいと考えているところであったが、令和４年度は実施できていない。

３．ご近所応援団　お話ボランティア

唐人町、福浜校区、本学近隣の地域支援ネットワーク。介護家族、傳照寺住職、唐人町商店街、民生委員、介護事業所や障害者施設の職員、社会福祉協議会、西日本短大、との連携・協力をしながら地域の助け合い活動の実施についてはコロナ感染防止のため実施が見送られた。

４．福岡市教育委員会　学生サポーター制度

特別支援学校、特別支援学級の児童・生徒の学習及び学校生活の補助（ボランティアの学生サポーター）として、本学社会福祉学科学生を派遣については、コロナ感染拡大防止のために実施できていない。

５．MLAP music with all project

・音楽活動による障害児者への生涯学習支援

文部科学省　障害児者の生涯学習支援のための実践研究事業に採択された。

福岡市手をつなぐ育成会保護者会　主催

コーディネーター　米倉裕子先生

連携協議会委員…西日本短大教員、福岡市教育委員会課長、博多区保健福祉課長、障害者施設の施設長、福岡市社会福祉協議会課長、障害者フレンドホーム職員など

・本学学生（社会福祉会サークル部員）は、音楽療法活動のボランティアや、ボランティア養成講座、MLAP

の活動報告会に参加。
・定期的に土曜日などに、障害児の音楽活動ボランティアに参加。
各活動については、学内活動のみ行うことができた。

６．公開講座、生涯学習、リカレント教育

手話サークル、社会福祉会サークルでのサークル活動（手話の練習、MLAP の報告会など）に、本学卒業生や地域の方が参加。また正規授業を科目履修として公開している。令和４年度は実施できていない。

進路（就職）支援実施計画（来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載してください。）

１学年では、就職模擬試験、適性検査の実施、２学年では、①進路ガイダンス、②進路希望調査、③担任の個別面談、④ハローワークによる模擬面接指導、⑤卒業生座談会、⑥福祉施設人事担当者による就職ガイダンス、⑦介護過程報告会公開、⑧福祉施設との情報交換会、⑨編入対策講座、⑩就職内定者向けセミナーを実施する。また、⑪福岡県及び福岡市主催福祉の仕事説明会の引率参加。⑫留学生のアルバイト・奨学生・就職斡旋、⑬発達障害の学生の就労支援。福岡市障害者就労支援センターとの連携。就職先との信頼関係を築き、人間力と技能を備えた学生を育成し就職・進学につなげ、卒業後も就職先及び卒業生宛てにアンケートを行い追跡調査・アフターケアを行う。

また、留学生については１年次より 100%就職先は決定しているため、２年間の生活支援と学習支援を行い、継続できる支援を行う。

計画に対する実績および自己評価

本学科の進路決定に関しては、100％介護施設への就職である。留学生は入学時には就職先は決まっており、日本人については有効求人倍率が高いために就職希望者は 100％就職可能である。しかし、編入希望者は毎年数名おり、今年は１名の留学生が西南学院へ進学し、障がいの可能性がある学生は就労移行支援につなぐことができた。

就職相談については担任による個別面談、卒業生座談会、福祉施設人事担当者による就職ガイダンス、福祉施設との情報交換会、編入対策講座、福岡県及び福岡市主催福祉の仕事説明会の参加誘導を行っている。

特別教育事業実施計画（教育ＧＰ等に向けた取組やプログラムの策定等について、構想があれば具体的に記述してください。）

１．コミュニケーション能力向上のための教育プログラム

本学科では、介護福祉士としての専門性向上において、コミュニケーション力向上は重要なプログラムであると考えている。コミュニケーション科目の中でのロールプレイだけでなく、当事者とのコミュニケーション体験は貴重な体験と考え、コミュニケーションの授業のゲストとして言語障害当事者や聴覚障害当事者を招き学生にコミュニケーションの取り方の実際として定例化している。また、実習開始前にオンラインによる実習施設とのやり取り、ボランティア参加や介護実践専門家による講義などで具体的イメージを学習する。

２．記述力向上プログラム

介護過程では、高度な文章力や理解力、分析力が要求される。文章力については個人差が大きいが、実習巡回担当別に個別指導に重点を置き指導する。記録物の内容を見直し、留学生にも対応しやすい様式に変更し、個別指導を心がける。

３．障害者介護教育プログラム

本学科は、障害児・者から高齢者まで幅広く支援ができる介護福祉士の育成をめざしていることが大きな特徴である。これまで、夏休みの自閉症療育キャンプの参加、地域の特別支援学校及び特別支援学級への訪問支援活動等を取り入れ、障害児・者施設への施設実習を積極的に取り入れる。

介護の基本Ⅳにおける障害者の介護過程の講義では、担当教員を増やし個別指導を行う。

４．国家試験対策教育プログラム

介護福祉士国家試験開始となるため、合格 100％をめざした教育プログラムを確立する。具体的には、専任教員は出題傾向を把握し、ミニテストの実施等日頃の授業の中で学生が習得できる方法を工夫する。学期末試験問題には、国家試験に対応した内容を取り入れ、評価基準の筆記試験割合を 80％に引き上げ評価を厳格化し、科目終了時点での基礎的な知識の習得を向上させる。２年後期には、専任教員全員の分担で国家試験

特講を開設し、出題範囲の総復習と模擬問題をドリルし解説する。全国模擬試験を２回、学内模擬試験も追加実施し、後期の総合演習で学生への個別面談を定期的に実施し、合格に向けてサポートしていく。留学生に関しては、課外授業で対応する。

５．四年制大学編入対策講座

編入希望者には学科内の対策講座を中心とし、学生支援事務部と連携により論文力や面接力向上し確実な合格を目指す。

計画に対する実績および自己評価

１．コミュニケーション能力向上のための教育プログラム

コミュニケーション科目の中でのロールプレイ、当事者とのコミュニケーション体験として、コミュニケーションの授業のゲストとして言語障害当事者や聴覚障害当事者との交流をズームにより実施した。また、ボランティア参加や介護実践専門家による講義などで具体的イメージを学習することができた。

２．記述力向上プログラム

介護過程、カンファレンス、実習日誌の記録では、記録物の内容を見直し、留学生にも対応しやすい様個別指導により記述力を向上できている。

３．障害者介護教育プログラム

夏休みの自閉症療育キャンプの参加、地域の特別支援学校及び特別支援学級への訪問支援活動等への参加はコロナ感染拡大防止のため実施できていない。

障害者の介護過程の講義では、担当教員を増やし個別指導を行うことができている。

４．国家試験対策教育プログラム

介護福祉士国家試験開始となるため、合格 100%をめざした教育プログラムを確立する。具体的には、専任教員は出題傾向を把握し、ミニテストの実施等日頃の授業の中で学生が習得できる方法を工夫できている。学期末試験問題には、国家試験に対応した内容を取り入れ、評価基準の筆記試験割合を 80%に引き上げ評価を厳格化し、科目終了時点での基礎的な知識の習得を向上させることができている。２年後期には、専任教員全員の分担で国家試験特講を開設し、出題範囲の総復習と模擬問題をドリルし解説する。全国模擬試験を２回、学内模擬試験も追加実施し、後期の総合演習で学生への個別面談を定期的に実施できた。

５．四年制大学編入対策講座

編入希望者には学科内の対策講座を中心とし、学生支援事務部と連携により論文力や面接力向上し、希望者全員合格できた。

授業改善実施計画（前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。）

授業改善については、授業公開実施と授業改善アンケート結果を踏まえ、各教員が担当科目別の学習成果を評価し、到達目標の振り返りを行い改善策を検討する。また、科目の節目ごとに学生のアンケートを取り、その後の授業改善につながるよう工夫していく。

専任教員、非常勤講師が担当する科目の授業目標と内容・評価基準について検討・調整を行うため、学科内でシラバス検討会議を行い、学習内容が効果的になるよう各科目間で調整を図り、学科としての最終到達目標が達成できるよう検討改善する。

また、留学生への指導方針は、ルビをふる以外に各授業のポイント部分を強化し、より分かりやすい動画や映像、絵や図などを増やし、理解しやすい内容に変更する。理解が難しい留学生には個別指導を行う。

非常勤講師会において、学科の指導方針や２年生の学習状況、新１年生の状況、留学生の状況を報告することで、広く非常勤講師の意見を反映できるよう心掛け、学生への対応を共通認識するために学科内での学習目標の意思統一をはかる。

計画に対する実績および自己評価

授業公開実施と授業改善アンケート結果を踏まえ、各教員が担当科目別の学習成果を評価し、到達目標の振り返りを行い改善策を検討し、科目の節目ごとに学生のアンケートを取り、授業改善に役立てることができた。シラバス検討会議により、授業内容の合理化や分担を明らかにすることができた。また非常勤講師会において、非常勤講師と学科の専任教員と学科の指導方針を共有し意思統一を図ることができた。

研究事業計画（学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画）

事業計画名称	事　業　計　画　概　要	備　考
自閉症の適応能力開発及び学生教育に関する研究	自閉症療育キャンプを実施し、地域に在住する自閉症児に対して２泊３日の宿泊を通じて生活指導・学習訓練・野外活動等の働きかけを行い、心身の発達を促進させる。自閉症児に対するそれらの働きかけの効果と、学生の障害児者介護教育への効果を検証する。	一山　中野 川井　折居 田邊　山本 古賀ひ
福祉職を目指す学生への心理劇を用いた学習方法の評価	心理劇における役割演技（ロール・プレイング）を体験することによって、学生の利用者理解力を高め、さらに対人関係能力や援助スキルを向上させることを目的とする。そこで、心理劇（集団心理療法）を用いた演習授業を行い、学生への学習効果を検証する。	一山　中野 川井　折居 田邊　山本 古賀ひ
学生サポーター活動による障害児介護教育	本学近隣にある特別支援学校や特別支援学級において障害児訪問支援のための学生サポーター活動を学外授業、地域交流教育として行う。 本学が平成21年度から協定した福岡市教育委員会主催・学生サポーター制度について全学的な取り組みや学科の取り組みを報告し、地域包括教育の意義と学生への教育効果を検証する。	中野　一山 川井　折居 田邊　山本 古賀ひ
発達障害児への療育支援に関する研究	発達障害児に対する療育支援を通じて、言語能力、認知能力、対人関係能力等社会適応能力の促進過程について報告し、課題学習訓練等の療育の効果的要因や各々の子どもに合った適正就学指導のあり方について検証する。	中野　一山 川井　折居 田邊　山本 古賀ひ
実習記録の指導方法についての研究	学生が実習日誌の書き方に自信がない現状がある。留学生を含めた文章力の向上のため、実習日誌の内容や指導法の簡素化、プロセスレコードの廃止、介護過程の様式と指導内容の簡素化を行い、留学生にも書きやすい様式に変更している。	中野　一山 川井　折居 田邊　山本 古賀ひ
「介護福祉士国家試験」受験のための学習方法について	国家試験を受験する学生への指導方法や試験評価やそれらの課題等について研究する。留学生の学習方法では、日本語力強化と同時進行でくり返し学習できる内容へ変更する。日本人については出題頻度順の指導をおこなう。	中野　一山 川井　折居 田邊　山本 古賀ひ
介護過程の指導方法	介護過程では、文章力だけでなく分析力が要求されるが、介護過程のアセスメント部分の様式と指導方法の変更が必要である。特に留学生は推測という考え方を苦手としているために、推測し表現することが困難なものに対して、感想などに置き換えるなどの変更を行う。	中野　一山 川井　折居 田邊　山本 古賀ひ
オンラインによる講義や実習指導の方法	令和２年に引き続き、令和３年もオンラインによる講義、実習を行う機会が多かった。試行錯誤の中でも、学生に対して効果的な講義や、オンラインによる実習が行えないかと検討し、実施をすることができた。しかし多くの課題が残り、今後オンラインを活用した講義や実習を行う方法の構築を行った。その内容は令和２年と３年の介護福祉教育学会誌に掲載となった。	中野　一山 川井　折居 田邊　山本 古賀ひ
計画に対する実績および自己評価		

・自閉症の適応能力開発及び学生教育に関する研究については、コロナ感染拡大防止のためじっしできていない。
・福祉職を目指す学生への心理劇を用いた学習方法の評価については、授業の中で実施しており利用者理解力を高め、さらに対人関係能力や援助スキルを向上させることができている。
・学生サポーター活動による障害児介護教育では、特別支援学校や特別支援学級において障害児訪問支援のための学生サポーター活動を学外授業、地域交流教育として行うことができていない。
・発達障害児への療育支援に関する研究は継続して行うことができている。
・実習記録の指導方法についての研究については、様式の変更や指導方法の個別化により継続している。
・「介護福祉士国家試験」受験のための学習方法については、日本人や留学生ともに過去問題集を使用し、過去３年分を繰り返し指導し、全教員が分野別に指導している。
・介護過程の指導方法は基本的には個別指導中心に行っている。指導方針は全教員で統一し変更の必要があれば、共通理解できるようにしている。
・オンラインによる講義や実習指導の方法は今回で終了とした。

社会活動計画

１．自閉症療育キャンプ運営委員 福岡精神発達障害療育研究所主催による自閉症療育キャンプが、毎年夏季に開催されており、社会福祉学科・法学科・保育学科の参加希望学生を引率指導し、教員と学生が療育担当スタッフとして参加する。 ２．篠栗町障害児通園事業・個別療育担当 篠栗町の障害児通園事業において、障害がある、または障害の疑いのある幼児・児童の個別療育及び保護者支援を行う。 ３．日本福祉心理学会運営委員 障害児者、児童、保育、教育、高齢者介護等における福祉の臨床や制度、人間の尊厳や人間科学に関わる福祉心理学の研究会開催や研究活動を行う。 ４．西日本心理劇学会運営委員 発達障害児者、精神障害者、認知症高齢者、児童等要援護者への適用、支援者の教育訓練に関する実践研究、ワークショップや研究会開催を行う。 ５．福岡発達障害つなぐ会会員 専門医療機関や就労移行支援事業所、高校、大学等が発達障害者の就労を促進する目的で連携を目指した研究会である。 ６．九州生活福祉支援研究会会員 発達障害の療育実践及び研究に関する研究会開催や研究活動に参加協力している。 ７．九州生活福祉支援研究会運営委員 発達障害の療育実践及び研究に関する研究会開催や研究活動を主となって行なっている。 ８．介護福祉教育学会 オンライン演習の効果的な内容を共同研究し、学会誌に掲載発表を行っている。	中野　一山 川井　折居 田邊　山本 古賀ひ

<u>計画に対する実績および自己評価</u>

１．自閉症療育キャンプ運営委員については、実施できていない。
２．篠栗町障害児通園事業・個別療育担当については、継続的に支援することができている。
３．日本福祉心理学会運営委員として運営の参加している。
４．西日本心理劇学会運営委員として運営の参加している。
５．福岡発達障害つなぐ会会員として運営の参加している。
６．九州生活福祉支援研究会会員として運営の参加している。
７．九州生活福祉支援研究会運営委員として運営の参加している。
８．介護福祉教育学会に投稿継続している。

令和４年度 保育学科 事業報告

教育事業計画

令和４年度の当該学科の教育実施方針	備　　考
本学の建学の精神に基づく学科の保育者養成方針である「感謝の心・謙虚な心・和の心」と「表現力・人間力・専門的知力」を重視する。保育、幼児教育に関わる社会問題を視野に入れ、多様性の尊重やジェンダー・ニュートラルな視点を醸成する。また、学生の主体性を尊重し、能動的な表現と活動を引き出せるよう配慮する。具体的取り組みの一つとして、１年次の総合演習における通年のマナー講習をより充実させ、実習及び就職後に求められる基本的な社会性の素地作りを行う。また、学内外のボランティア活動や行事を通して、責任感や協調性を育むことを目指す。	

計画に対する実績および自己評価

入学式後のオリエンテーションにおいて、建学の精神とそれに基づく学科方針について、学生にわかりやすいよう解説し、保育者をめざす者として身につけたい要素を３つのポリシーに関連付けて伝えた。社会問題・課題を視野にいれた授業のあり方は、専任教員の担当する一部の科目で具体的に取り組んだ。人権尊重についての高い意識を養うことが必要な学科であるため、日常生活で生じることがらについて学生と共に考え、望ましい判断や行動ができることを支援した。オープンキャンパスやボランティア活動において、学生のアイディアを取り入れた自発的な活動を促進したが、教員が枠組みを提示したり、活動のモデルを示したりすることが必要であった。総合演習の中でマナー講習を継続的に行っているが、今年度は時間を確保することが難しい場合が増え、量的には不十分であったと思われる。コロナ禍によりボランティアは学内整美と地域清掃に限られたが、グループで協力して計画・実施する経験の中で、ねらいとした力も養うことができたと感じる。

学生募集・広報につながる教育実施計画（低迷する入学者数を増やしていくためには、どうするのか具体的に記述してください。）	備　　考
本学保育学科が独自性をもっている教育要素として、新たな時代に求められている社会問題に関する確かな視点や、アクティブラーニングによる学習形態、必要に応じた個別の丁寧な学習・実習支援等をさらに充実させる。他学科との連携による公務員保育士試験対策や、茶道文化、保育園芸、児童厚生員、レクリエーション関連などの独自科目と、それに伴う取得可能資格について、学生にメリットがわかりやすいよう教示、指導する。	

計画に対する実績および自己評価

コロナ対応により他大学で通常の教育形態として取り入れ継続となっているオンライン授業やハイブリッド授業を行わない本学の方針のもと、対面ならではの良さを実感できる授業形態を充実させ、アクティブラーニングも取り入れて実施することができている。学生どうしのディスカッションや共同作業、グループで話し合って活動や発表を行う等を通して、コミュニケーション力やチーム力、対人スキルを身につける機会を増やせている。また、オープンキャンパス等の行事に向けての指導も丁寧に行っていることで、マナーや社会的スキルの実践の場となっているほか、学年を超えて共同作業をしたり、１，２年生がつながりをもって、実習等に関する情報の授受を行う等の副次的効果ももたらされていることがわかる。

個別対応の必要な学生や状況にも適宜対応しており、大学が本人にとって安心できる居場所となる配慮をしている。履修指導において、独自科目の意義は丁寧に伝え、履修し資格取得していく学生は一定割合確保できている。一方で、必修授業の多さから消極的な学生もいるが、個々の希望や特性に応じた、無理のない取り組みを支援することも大切にしている。

また、今年度はコロナ禍以前にも実施が見送られてきた学外文化研修を実施することができた。参加者である１年生は、高校時に修学旅行が中止となったことをはじめ、様々な行事が中止になる経験をしてきた世代であり、本研修への期待が大きかった。学生のニーズと保育者養成のための貴重な経験となるよう、学生の希望を充分に取り入れ、学生自身の企画を中心に構成したプログラムで、自己管理、協調、学習を行うことが実現できたと思われ、事後の感想からは、予想以上の充実感と学びを得られたことが感じられた。

生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方について具体的に記述してください。	備　　考
実習指導の総合マニュアルが完成したため、本年度より実習授業において活用し、学生が主体的に実習準備を行えるよう指導する。蓄積されたノーハウによる実習指導は、実習園・施設から高い評価を受けており、多くの学生が志望通りに就職し、就職率も毎年ほぼ100%であるため、指導の質の維持・向上をめざす。学習面で支援の必要な学生も増えているため、可能な限り個別の丁寧な対応を行う。学生間や対教員への不適切な言動が目立つ学生については、本人の特性や思いに受容的に関与しつつも、課題を明確にして指導できるよう教員間での情報共有と連携を行う。	
計画に対する実績および自己評価 昨年度完成した学科オリジナルの「実習のための書類作成の手引き」を、各保育実習指導において配布し活用した。２つの国家資格・免許とそれ以上の民間資格を取得する学生にとって、実習に必要な書類や手続を、ミスなく要領よく作成し取り扱うことが年々課題となりつつあったため、手引きにより要点を整理して理解することができるようになり、学生にとって有益な資源となっている。実習においては、巡回訪問指導の際に、各教員が実習先と丁寧に情報共有や意見交換を行い、学生にとって必要な指導やサポートを受けられる状態をつくることができているといえる。学科教員全員での指導体制と、懸案事項が生じた際のタイムリーで綿密な協議・問題解決体制も学科内に定着しており、時機を逸することなく対応ができるようにしている。中には、指導の意義について学生や家族の理解が困難な場合も生じることがあったが、早めのタイミングで、充分本人らの気持ちや希望を聴き、必要に応じて面談等を重ね、誠意を持って対応することで理解を得ることもできた。 国家資格・免許以外の民間資格についても希望者が多い状況があり、積極的な取得につながるプレゼンテーションや取得のためのサポートが適切に行えた。	
社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について（テーマ・講師・日程等を具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマで実施するのか具体的に記述してください。）	備　　考
一般市民参加の公開講座については長く実施していなかったが、今年度企画を検討し、来年度に向けて準備を始める。従来行ってきた福浜祭における地域の親子対象のイベントである「コーナー保育」や屋上での芋掘り、「オレンジ&パープルリボン運動」は継続して実施する。また、数年間学内のみの公開で実施してきた２月上旬の卒業研究発表会も、一般公開の形で開催できるよう企画する。	
計画に対する実績および自己評価 これまでは行えていなかった、主に高校向けの出前授業を全教員が行えるよう企画した。要請がなかったものの、各教員の専門性を対外的に活用するための素地づくりになったと思われる。コロナ対応や学生への個別支援等に時間を要する場合が多かったこともあり、公開講座の企画については検討段階に留まっている。外部機関からの要請によるセミナー等の講師活動は極力引き受けているが、大学・学科主催で企画・実践できるためには、実質的マンパワーと業務量の課題をクリアする必要があることも実感している。福浜祭における地域市民参加の企画は定着しつつあり、今年度も多数の参加があり好評を得た。卒業研究発表会については、コロナ感染への配慮も必要であったため、一般公開は控えざるをえなかった。	
進路（就職）支援実施計画（来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載してください。）	備　　考
保育職は今年度も求人が多い状況が続くと見込まれるため、保育園、幼稚園、施設への就職率は従来通り高い水準が維持できると思われる。そのため、より学生の希望と個性に合ったマッチングを考慮して就職支援を行う。実習受入れ施設・園からの求人については、学生支援部に情報を共有しながら優先的に学生に紹介できるよう配慮する。一部、一般就職や編入の希望者がいる場合は、早めに聞き取り、無理のない時期に準備・活動できるよう支援する。公務員保育士希望者については、年度始めの早期に把握し、準備について具体的に指導する。	
計画に対する実績および自己評価	

就職希望者の就職率は100%であり、内容についても、ほとんどの学生が希望する保育園・幼稚園・認定こども園・施設等に就職が叶った。学科の学生支援部員とゼミ担当教員の連携による進路指導もうまく機能し、学生がいつでも相談できて必要な支援を受けることの出来る学科体制ができた。一部、就職への意欲が低く、意思が曖昧な時期が長く続いた学生もおり、学生支援部と学科との双方で情報を授受し連携支援できる体制づくりが求められた。実習と就職の両面で協力関係が必須である園・施設とのつながりを構築するための協議、訪問、会合出席等も積極的に行い、卒業後も継続して保育者養成に関わっていく学科の姿勢を周知できつつある。しかしながら、就職先への調査結果からは、早期離職の傾向や、在学中に身につけることが求められている要素等を知ることができ、年度ごとに変化するニーズに対応できるよう指導の重心を検討していく必要も感じられた。

特別教育事業実施計画（教育ＧＰ等に向けた取組やプログラムの策定等について、構想があれば具体的に記述してください。）	備　考
特になし	
計画に対する実績および自己評価 なし	

授業改善実施計画（前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。）	備　考
主に教職課程科目について、文部科学省からの要請に沿った授業構成ができているため、関連し合っている科目について学生の学びがスムーズであるよう、開講期や科目担当者の入れ替えが必要な点を整理する。学生の学習力をより考慮して授業方法を工夫する必要のある面については、授業改善アンケートや学生の声を参考に、非常勤講師連絡会をはじめとした機会に担当教員と具体的な打ち合わせを行い改善していく。	
計画に対する実績および自己評価 科目の開講期と担当者の改編が実施できた。これまで充分検討がなされていなかった２年間の学生の学びについての科目の連環を詳細に確認して整理する作業にも取りかかり、ルーブリック作成と活用を通した授業の質向上にも着手している。非常勤講師を含め、全教員が学科方針を理解して、学生に質の良いブレのない指導を行えるよう、科内会議や非常勤講師連絡会および日常のコミュニケーションにおいて確認を行っている。	

研究事業計画（学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画）

事業計画名称	事　業　計　画　概　要	備　考
授業、実習を中心とした学科業務が繁忙であることから、研究活動に取り組めていない現状があり、今年度においても教育・研究・業務・社会貢献のアンバランス改善は課題である。従来の方針通り、教職課程認可に必要な活字業績を、全専任教員が年間１編以上は執筆することとする。		
計画に対する実績および自己評価 学科業務繁忙による業務における研究活動割合の少なさは継続した状況である。従来、学科教員のタスクとしている紀要への投稿はほぼ行えているが、外部資金への応募等はほとんどできていない。		

社会活動計画

活　動　概　要	備　考
学生による地域貢献活動として、障がい系施設や保育・幼児教育施設等におけるボランティア活動や、近隣の海岸や歩道、公園の清掃活動を実施する。感染症流行が終息した際には、教員に要請のある発達支援や子育て支援関連の講座やイベントに学生も参加する機会を作る。	

計画に対する実績および自己評価

コロナ禍にあっても、障がい児者を対象としたスポーツ教室等のボランティアの依頼に応じ、年間を通じて、希望者を中心に継続的ボランティア活動が行えた。また、1年生の総合演習の一環として地域清掃を全学生と教員とで実施した。さらに、例年福浜祭においてゼミ活動として実施している「オレンジ&パープルリボン運動」を、今年度も学生主体の活動として実施した。子ども虐待防止と女性への暴力根絶をめざした社会活動を通して、学生の問題理解の向上をめざすと同時に、学科の人権意識・社会問題への深い理解と積極的関わりを表す機会となっている。教員の活動としては、保育園・幼稚園・施設や、自治体、企業の要請により、発達支援や子育て支援に関する講座講師を務める等行った。

令和４年度 健康スポーツコミュニケーション学科 事業報告

教育事業計画

令和４年度の当該学科の教育実施方針	備　考
「支える」をキーワードに、子どもから高齢者まで様々なライフステージのスポーツ活動を支援し、『元気やたくましさを創り、多くの人を笑顔に』を実現できるスポーツ指導者の育成をめざす。また、指導者として豊かな人間性、社会性を涵養するため、「健スポ魂～５つの心」に基づいて礼節を磨くとともに、コミュニケーション力などのライフスキルを教育し、社会で求められる質の高いスポーツ指導者を育てることをめざす。	

計画に対する実績および自己評価

令和４年度も引き続き、子どもから高齢者まで様々なライフステージのスポーツ活動を支援できるスポーツ指導者の育成に取り組んだ。その成果は、健康・体力づくりのフィットネス資格である健康運動実践指導者、グループエクササイズフィットネスインストラクター（GFI）、障がい者を指導対象としたパラスポーツ指導員、スポーツ指導者の基礎資格であるコーチングアシスタント、競泳コーチ３など多岐にわたり学生が資格を取得できたことに見られる。また、月に１度の福浜健康体操教室（フィットネストレーナーコース）や西短大の体育館であそぼう（キッズスポーツコース）などの地域・社会貢献活動に参画したことにより、幅広い世代のスポーツ活動を支えるスポーツ指導者を育てることができる礎を築いたと考える。また、人間性、社会性の高いスポーツ指導者の育成に関しては、「健スポ魂～５つの心」をもとに、人間性教育を涵養しながら、100％の進路決定を実現した。

学生募集・広報につながる教育実施計画（低迷する入学者数を増やしていくためには、どうするのか具体的に記述してください。）	備　考
本年度も「魅力ある学科づくり」を念頭におき、学生募集・広報につながるべく教育内容を充実させるため、以下の取り組みを計画している。 １．身近な高校との連携 附属高校をはじめ、高大連携の依頼を受けた高校、在学生の出身校などに年３回発行の学科新聞 HotTopics を郵送し、赴く機会を増やし高校生の進路選択の一助とすることでアピールする。そのためには資格取得や進路情報を提供しながら学生生活をイメージしやすくする。つまり、高校生への歩み寄りで学生募集につなげていく。 ２．フィールド活動を通した教育環境の充実 ⑴　地域や自治体のイベントにボランティアとして積極的に参加する。 ⑵　学内外での学科主催イベント実施による社会的地域貢献活動を通して、社会人基礎力や人間性を高める教育を進める。 ３．これまでの教育内容を周知するために民間運営による大学・短期大学の進学情報サイトへの積極的参加や本学ホームページの工夫による SEO（Search Engine Optimization）の改善および更新頻度を増やし多くの人々に見てもらえる機会を作り、より学科の認知度を高める。	

計画に対する実績および自己評価

１．附属高校などへの高大連携（出前授業）は可能な限り参加し、高校生の卒業後の進路の助けになったことと感じている。新型コロナウイルス感染防止のためにリモートでの連携も取り組んだ。また、学科新聞 HotTopics の郵送においても継続し、本学科を少しずつ理解してもらえているものと考えている。ただ、この情報が高校生まで届いているのか、届いたとしても心を動かせたのかは不明であるが、学生募集に関しては即結果につながるとは限らないので、継続して高校へ歩み寄りたい。

２．⑴ボランティアには新型コロナウイルスの影響を受けたが、学科としての取り組みや各ゼミ・授業などで、「JFA ユニクロサッカーキッズ in PayPay ドーム」（2022 年８月３日）、「秋の公園で遊ぼう」（2022 年 11 月３日）、「福岡県障がい者スポーツ大会」（2022 年５月８日）、「障がい者スポーツ教室」などにボランティアとして参加できた。

⑵フィットネストレーナーコースとキッズスポーツコースの多岐にわたる学外行事を令和4年度も継続し、学生募集を念頭に広報につながる教育活動が実施できた。毎月一回の「福浜健康体操教室」や同じく毎月一回の「西短大の体育館であそぼう」、「楽動塾」、「西短キッズスポーツフェスティバル」などの実施は、幅広い世代とのつながりやコミュニケーションを図る貴重な場となった。

3．進学情報サイトへの参加や本学ホームページの工夫によるSEO（Search Engine Optimization）の改善により学科の認知度を高めることに関しては、本学科のみならず6学科の問題なので募集委員会を通して促したが、予想よりも進んだ実感がなかった。

生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方について具体的に記述してください。	備　考
令和４年度は、以下のことに取り組む。 １．キックオフ研修の実施： 新入生を対象に入学後の大学生活に関する指導、同級生および教員とのコミュニケーションを深めるために１日間の研修を実施する。例年は宿泊を伴う２日間を擁していたが、本年度も新型コロナウイルスの感染状況により、コロナ対策をした上で、日帰りの研修とする。 ２．学生ミーティングの実施： １年生を対象に、前期、後期に１回ずつクラス担任が学生とのミーティングを実施する。ミーティングに際しては事前に大学生活等に関する調査を実施し、その後、調査に基づいて生活指導、資格取得・進路指導を行う。また、授業受講態度、生活態度によっては随時個別指導を行う。２年生は、ゼミナール担当教員が学生とのミーティングを実施する。 ３．オフィスアワーの設定： 学生が相談等で各教員の研究室に来訪できるように各教員のオフィスアワーを設定し、研究室前に掲示する。 ４．演習・実習科目における指導： スポーツ企業情報演習をはじめ、学内外ボランティア活動、スポーツ企業実習Ⅰ・Ⅱの履修学生に対して、実習の心構えや準備・計画、服装等について事前、事後指導を行う。 ５．教員間での情報共有： 学生に関して発生した問題・課題については、情報を教員間で共有する。このことで、科内全体で適切な対応が可能になると考える。具体的には、毎月開催する学科会議において情報交換を行い、緊急を要する場合は速やかに招集し、事の解決をする。 ６．仲間意識の醸成と信頼関係の構築： 学科という集団でイベント活動、ボランティア活動を積極的に行うことで、仲間意識を高め、クラスから外れてゆく学生が極力現れないようにする。教員は学生と積極的なコミュニケーションを図り、学生の考えや思いを理解できるように心がけ、学習指導や生活指導に役立てる。 ７．資格取得への指導： 各学年に対し、履修登録指導の際、もしくはキャリア演習、ゼミ活動のなかで、将来にとっての資格取得の重要性を説きながら取得サポートを行う。	

<u>計画に対する実績および自己評価</u>

1．新型コロナの影響を受けつつ、新入生には不安なくスムーズに学生生活が始められるようにキックオフ研修を４月９日の日帰り開催で実施した。本研修で掲げていた大学生活に関する指導、進路紹介、資格取得および同級生・教員とのコミュニケーションを図るという目的は達成できたと考える。

2．２年生とのミーティングでは、ゼミナール受講学生に生活指導と就職支援、資格取得のアドバイス等を行った。指定したミーティング日以外でも、随時ミーティングができるよう努めた。

3．オフィスアワーを設定し研究室前に掲示した。該当時間は研究室にいたが、オフィスアワーを意識して来訪する学生は少なかったように思う。

4．実習の心構えや準備・計画、服装等については、実習の事前事後にスライドや事例を挙げながら指導した。ただし、実習時に事前指導内容を理解できていない学生もいたため、事前指導の徹底が求められた。

５．毎月開催する学科会議ではもちろん、その他の時間でも学科長を中心に情報共有が図れていた。
６．学科イベントや学校イベント、学外ボランティア活動などを通して、学生の仲間意識が醸成できたと考える。また、教員は学生の特徴を理解することができ、生活指導などにおいて個々に適した指導に繋げることができた。
７．資格取得への指導は、履修登録指導とキャリア演習、ゼミ活動時間で実施した。また、2 年生には資格内容や資格の必要性を個別に説明する機会も多くあり、十分なサポートができたと考える。

社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について（テーマ・講師・日程等を具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマで実施するのか具体的に記述してください。）	備　　考
１．「楽動塾 2022」 2022 年度も引き続き、９～10 月に計３回、年長～小４向け運動教室を開催する。本学非常勤講師にご担当いただき、運動が苦手な子どもでも遊びながら楽しむことができ、なおかつ運動神経を高められる体験を計画している。参加費は徴収せず、大学の公開講座として開催する。講師料や広報費、飾り付け等雑費として経費を要する。 ２．「西短キッズスポーツフェスティバル 2022」 楽動塾の総括イベントとして 11 月に開催予定である。学生が企画・運営・指導までを行う本事業は 2022 年度で 10 回目を迎え、年長～小４の子どもを対象とした地域密着型の恒例イベントとなっている。当年度も地域の子どもたちが運動・スポーツに親しむきっかけづくりとなるイベントにする。 ３．「福浜健康体操教室」 2021 年度から始めた、地元福浜地区にお住まいの高齢者を対象として、行政とともに月に１度の体操教室を行う。高齢者の健康維持・増進を目的とする。	

計画に対する実績および自己評価

１．「楽動塾 2022」
からだを「楽」しく「動」かしながら運動への関心を高め、巧みにカラダや物を操り、運動神経を高めることを目的に３回開催し、参加人数は合計 33 名であった。例年同様、参加児童、保護者より大変好評をいただいた。
２．「西短キッズスポーツフェスティバル 2022」
楽動塾やこれまでのキッズ系の学びの集大成として西短キッズスポーツフェスティバルを実施した。10 回目となる令和４年度も、学生自らが主となりプログラムやイベントの流れを作成し、学生のみで企画・運営・指導まで行った。本年も楽動塾とともに、事故無く終了することができ、参加児童や保護者の方からプログラムの内容や学生の対応など、今回も好評をいただいた。今後も地域社会における本学の社会的役割を果たしていくためにも継続する必要性があると強く感じた。
３．「福浜健康体操教室」
毎月第二金曜日に、学生や教員が福浜地区の高齢者を中心に運動指導をするもので、福岡市の市政だよりからの周知により年々参加者数が増加しており必要性を感じている。今後も地域社会に貢献できるように継続していきたい。

進路（就職）支援実施計画（来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載してください。）	備　　考
令和４年度も社会人基礎力に通じる「人間力」の向上と就業意欲を高めていくために、以下のことを計画して取り組む。 ⑴　就職情報サイトへの登録やマナー講座、履歴書作成指導を実施する。 ⑵　就職模擬試験や適性検査を実施する。 ⑶　職場見学の実施：１年次のスポーツ企業情報演習において各種スポーツ・運動施設の見学を行い、将来の就職先や実習先を意識させる。 ⑷　スポーツ企業実習の実施：１年次後期のスポーツ企業実習Ⅰおよび２年次前期のスポーツ企業実習Ⅱにおいてスポーツクラブ、フィットネスクラブ、幼児体育教室、スイミングクラブ、スポーツショップなどの企業で実習を行い、卒業後の進路をさらに意識させ	

る。これが就職先となる場合もある。

⑸　実習報告会の実施：１、２年次に行うスポーツ企業実習Ⅰ・Ⅱの報告会を学科全体で行う。

⑹　ゼミナールを活用した進路指導・支援をする。

⑺　就活キックオフセミナーの実施：1年生を対象として就職活動を前に、各業界で働く方や卒業生（OB、OG）を講師として招き、スクール形式で各業界の話を聞く。その後、企業説明会さながらのブース形式をとり興味・関心ある企業様の話を聞く。

⑻　就職活動報告会の実施：就職活動を終えた２年生から１年生に、就職活動の経験やアドバイスを伝えてもらう。

⑼　OBOG へのキャリアインタビューの実施：卒業後３年までの若いOBOG 約６名に、業界や自身の就職活動、学生生活の経験を１、２年生に伝えてもらう。

計画に対する実績および自己評価

⑴　計画通り実施。4 月 25 日にマナー講座（スーツの着こなし）、7 月 25 日に履歴書作成指導、12 月 22 日に就職情報サイトへの登録を実施した。段階的に就職活動への意識づけができたと考える。

⑵　計画通り実施。10 月 4 日に適性検査、11 月 10 日に就職模擬試験を実施した。特に適性検査では、後日解説会を実施したことで、各学生が職業適性について考える良い機会となった。

⑶　計画通り実施。7 月 1 日～7 月 29 日の期間に、学生は２企業の見学を実施した。見学を依頼した企業は７企業（幼児体育、フィットネスクラブ、スイミング、公共施設、パラスポーツ、パーソナルトレーニング、女性専用フィットネス）であった。学生は希望する分野を事前研究し、見学後に報告書をまとめた。見学することで将来の就職や実習をイメージすることができたと考える。

⑷　選択科目であるスポーツ企業実習を体験した学生は、仕事内容も理解し、就職への意識・意欲は高まったと思われる学生がいる一方で、イメージした業界と異なり将来の職業選択に迷いを抱く学生も存在した。昨年度同様企業実習Ⅱ（２年次夏期）の希望者がおらず、早めの企業実習Ⅰ（１年次春期）を履修する傾向にあった。

⑸　実習報告会ではスポーツ企業実習Ⅰ・Ⅱにおいて実習を終えた学生が他の学生に対しプレゼンテーションを行うもので、令和４年度は実習報告会を 5 月 6 日に行った。プレゼンテーション対象者は実習Ⅰの１年次春期に実習した学生から実習中に得られた情報や体験を報告するとともに質問の時間を設けた。他の学生たちは今後の実習先および就職先などの進路選択の一助となった。実習Ⅱの２年次夏期の実習生はいなかった。

⑹　ゼミナールでは、ボランティア活動を通してスポーツインストラクターや運動指導員の仕事内容等を学ぶことができた。また、ゼミナール授業内での就職活動状況の確認と就職支援、授業時間外での履歴書作成・面接指導等も実施した。各ゼミナールでの就職指導・支援が、卒業生全員の就職内定に結びついた。

⑺　計画通り実施。1 月 20 日（9 時～12 時）に１年生を対象に就活キックオフセミナーを実施した。７企業に来校いただき、前半は各企業５分程度の企業説明、後半は 7 ブースに分かれて個別説明会を行った。各学生が興味・関心のある企業ブースで話を聞くことができ、有意義なセミナーとなった。

⑻　計画通り実施。12 月 15 日、２年生２名が１年生に就職活動の体験と就職活動に向けてのアドバイスを行った。２年生２名の指導対象が成人と幼児であることや、就職活動の手段も異なっていたため、１年生にはとても参考になったと考える。

⑼　予定通り実施。5 月 20 日、卒業生４名に来校いただき、インタビュー形式で各業種の業務内容や学生時代の就職活動、学生生活の経験などを在学生に説明していただいた。OBOG が学生目線でも話されたため、在学生にとって業界理解や進路選択の一助となったと感じられ、在学生も将来がイメージしやすいイベントとなった。

特別教育事業実施計画（教育ＧＰ等に向けた取組やプログラムの策定等について、構想があれば具体的に記述してください。）	備　　考
・小川ゼミナールでは、2022 年度から本学にて「西短大の体育館であそぼう！」を計画している。月１回程度、未就学児とその保護者を対象に体育館で運動遊びや自由遊びを行い、学生のスポーツ指導者としてのインストラクション能力を高める取り組みである。また地域住民に運動や心身のリフレッシュの機会を提供するとともに他学科や外部団体等とも連携を図り、知的資源の地域社会への還元を図る。	

・福岡県サッカー協会キッズ委員会と連携し、年度初め（５月頃）に本学で JFA 公認キッズリーダー養成講習会を開催し、資格取得後、学生の指導実践の場として、課外や長期休暇などを利用し、巡回指導を実施する予定である。	
計画に対する実績および自己評価 ・小川ゼミナールでは、2022 年度から本学にて「西短大の体育館であそぼう！」を月１回開催し、地域の未就学児とその保護者へ運動機会・場所やリフレッシュの機会を提供できた。新型コロナウイルスの影響や悪天候での中止が２回あったが、累計 69 組の親子、80 名以上の子どもが来場した。また本学メディア・プロモーション学科の徳永教授や福岡市中央区地域保健福祉課、福岡市中央区子育て支援課など、他学科や地域行政と連携したイベントも開催し、本学の知的資源を活用して地域の健康づくりに貢献できたと考えられる。 ・JFA 公認キッズリーダー養成講習会を５月 14 日（土）に本学で開催し、取得希望者 11 名が JFA 公認キッズリーダーの資格を取得した。JFA 公認キッズリーダーは、サッカーのみならず体を動かす事の楽しさ、爽快さを子ども達に伝え、スポーツの魅力を実感してもらうことに重点を置いている。その資格を取得した学生が、JFA コーチと共に幼稚園を訪問し、巡回指導を行うことができた。	
授業改善実施計画（前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。）	備　　考
⑴　今年度も授業改善アンケートを実施し、各教員がそのアンケートを基に改善を行う。また、学科において前後期各１名ずつの非常勤講師を含む教員の授業を必ず参観し、工夫された授業を参考にできるように参観記録に記載し実行する。さらに、毎年開催している非常勤講師連絡会において本学科開催の分科会において専任・非常勤と連携をして課題解決に取り組み、教育の質の向上・充実を図っていく。 ⑵　2022 年度も引き続き、１年生科目のキャリア演習 IA、IB、２年生科目のキャリア演習Ⅱの授業の中で、読み書き、計算、などの一般常識、スポーツ指導者としての専門知識などのテストを実施して基礎学力向上のためのリメディアル教育を行う。	
計画に対する実績および自己評価 ⑴　今年度も学生ポータルサイト上で授業改善アンケートが行い、その結果を基に各教員が「PDCA サイクルによる学習成果アセスメント」を作成し、授業改善案を提出した。また、前後期各１名ずつが公開授業を行い、公開授業とともに授業への参観も行った。各教員の特長が現れ参考にできる取り組みであった。 ⑵　キャリア演習で計画していた内容は実施でき、授業目標である社会人基礎力の向上は達成できたと思われる。就職活動対策としても役立っているようである。教育効果は今後も継続して確認・評価していく必要があるが、毎年異なる学生の対応が必要でもあり、場合によって個別指導に近いカタチで指導を要する場面があった。	

研究事業計画（学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画）

事業計画名称	事　業　計　画　概　要	備　　考
小川　茜　准教授 ⑴　他者の不安表情の知覚が自己の実践的な運動パフォーマンスに及ぼす影響 　引き続き同様のテーマに取り組む（2019-2021 年度科学研究費若手研究；2021 年度に産休育休で中断したため 2022 年度が最終年度となる）。本年度はデータのまとめと発表に取りかかる予定である。 ⑵　乳幼児を持つ親のメンタルヘルスや運動習慣、育児環境に関する調査 　本学のイベント参加者を対象に縦断的なアンケート調査を行う。適宜外部団体との連携を図り共同研究として進める。		
計画に対する実績および自己評価		

小川　茜　准教授 ⑴　他者の不安表情の知覚が自己の実践的な運動パフォーマンスに及ぼす影響 　データのまとめと発表の準備を行った。次年度以降学会発表や論文投稿を行う予定である。 ⑵　乳幼児を持つ親のメンタルヘルスや運動習慣、育児環境に関する調査 　1年間データの収集を行った。次年度以降もデータ収集を継続する予定である。

社会活動計画

活　動　概　要	備　考
地域社会へのウエルネスに貢献できる人材育成のために、スポーツボランティア演習Ⅰ・Ⅱを前年度と同様、積極的に地域社会と連携し活動を実施する。今年度は、以下のような事業を計画している。 ⑴　「PayPay ドーム de モーニング体操」へ参加し、地域の方々の健康づくりのサポートを行う。（昨年度は中止） ⑵　ユニクロサッカーキッズにボランティアとして参加する。子どものサッカーを通じて学生がスポーツ指導に慣れ親しむ実践の場ともしている。 ⑶　「福岡市障がい者スポーツ大会」などのスポーツイベントボランティア活動を行う。（昨年度は中止） ⑷　「市民スポーツフェスタ」などのスポーツレクリエーションイベントのボランティア活動を行う。（昨年度は中止） ⑸　「秋の公園であそぼう」などの地域社会における様々なイベントに協力する。 ⑹　福岡市中央区保健福祉センターから依頼された「福浜健康体操」に指導者および指導補助者として共同開催していく。	
<u>計画に対する実績および自己評価</u> ⑴　「PayPay ドーム de モーニング体操」は今年度も中止された。また、令和４年度の「世界水泳 2022」にボランティア協力予定であったが、令和５年度に延期された。 ⑵　8 月 3 日に実施され、本学科からボランティアスタッフとして参加した。２年生の中には２度目の参加ということもあり、堂々と子どもたちの誘導や案内、ミニサッカーの審判を行い、１年生は２年生に従いながら業務を遂行していた。これらの経験がスポーツ・運動の指導者としての基本的な経験となったと感じた。 ⑶　本学科の 1 年生が、福岡県障がい者スポーツ大会（5 月 8 日開催）と福岡市障がい者スポーツ大会（11 月 23 日開催）にボランティアスタッフとして参加した。ボランティア活動を通して、障がい者理解と地域社会との繋がりを深めることができた。 ⑷　市民スポーツフェスタは実施されなかった。 ⑸　11 月 3 日文化の日に屋外の舞鶴公園にて、子どもや家族対象のレクリエーションイベントが開催され、ボランティアとして協力できた。学科主催で出展した運動ブースには過去最高の約 200 名の子どもが参加し、充実した地域貢献活動を展開できた。	

令和４年度 メディア・プロモーション学科 事業報告

教育事業計画

令和４年度の当該学科の教育実施方針
メディア・プロモーション学科は、実務科目の中にコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育成するために「アナウンスメント」「ボイストレーニング」「アテレコ」「MC トーク」「ダンス表現研究」「映像演技」「オーディション対策」などを配置し、良き社会人としての適格性を向上させるため「メイク」「マナーと表現」「茶道」などを配置。さらに学科選抜ユニットを編成し、現在オリジナル楽曲６曲保有、2020 年より毎年新曲の制作、ミュージックビデオを発表している。また、課外授業の一環として「イベント出演」「学科ライブ主催」「学科発表会」を行うことで、より実践的な学びの場を提供。 また、ビジネススキルアップのため、必修科目を、10 単位から 12 単位に。 留学生は日本人学生と共にイベントや授業に参加する事で交流を深め、コミュニケーション力を向上させることができる。学科ならではの表現力向上や、異文化理解を目指した授業を通して、就職に役立つ基礎を養うことを目指す。
計画に対する実績および自己評価 メディア・プロモーション学科は、実務科目の中に配置した各科目を通じて、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育成する教育および、良き社会人としての適格性を向上させるための教育を行った。 また、学生による「アイドルユニット」「演劇ユニット」「声優ユニット」「制作チーム」を編成し、「イベント出演」「学科ライブ」「配信ライブ」「卒業公演」などを行うことで、実践的な学びの場を提供した。 留学生は、日本人学生と共にイベントや授業に参加する事で交流を深め、コミュニケーション力を向上させた。学科ならではの表現力向上や異文化理解のための授業を通して、就職に役立つ基礎を養った。
学生募集・広報につながる教育実施計画（低迷する入学者数を増やしていくためには、どうするのか具体的に記述してください。）
数年前から行っている学科ライブ活動、秋の学科主催全員参加型イベントの他、オープンキャンパスにおいても、外部からメディアで活躍する卒業生や、話題のタレントなどをゲストにした企画を考え、学科に興味を持ちそうな高校生へのPRを発信する。高校、ダンススクール、芸能事務所等にダイレクトメールを発送、出前授業は、昨年度から反応あり。 留学生に関しては、日本人学生と同様 SNS での発信を行うと同時に、学科の授業内容や就職サポートなどを資料としてまとめ、日本語学校の訪問や進学説明会への参加を積極的に行い、募集に努める。
計画に対する実績および自己評価 オープンキャンパスにおいて、本学科を志望する高校生が興味を持ちそうな、ご当地アイドルを招いたトークショーを開催し、SNS で積極的に発信した。 本学科を進学先と考えそうな、高校生の部活（演劇部・ダンス部・放送部など）や、ダンススクール、ボーカルスクール、芸能事務所などへ、学科 PR 資料等の送付を行った。 学科の活動の軌跡をまとめた本を出版し、各種マスコミに取り上げられ、学科および学校の知名度アップにつなげた。
生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方について具体的に記述してください。
メディア・プロモーション学科を構成する 12 期生（１年生）に対しては「総合演習Ⅰ・Ⅱ」の必修科目の中で、きめ細やかな生活指導を心がける。11 期生に対しては本学科の専任教員４名による４個のゼミナールに於いて、それぞれの教員の誇りと責任意識の下に教育指導を心掛ける。「表現とマナー」では、マナープロトコール検定で、資格取得を目指す。 企業への就職に役立つようなグローバル人材検定、パソコンのタイピング技能などの向上を目指し、まずは総合演習などの時間で学ぶ。また他部署と連携し就職支援を行うほか、２年生に対してはゼミを通して日本人学生、教員との交流を深め、面接や就職活動に役立つ情報やスキルを身につける。
計画に対する実績および自己評価

１年生に対しては、必修科目「総合演習Ⅰ・Ⅱ」において、きめ細やかな生活指導を行った。２年生に対しては、本学科の専任教員４名による４つの「ゼミナール」において、個別に指導を行った。

留学生には、１年生に対しては、必修科目「総合演習Ⅰ・Ⅱ」において、日本企業への就職に役立つグローバル人材検定、パソコンのタイピング技能などの向上を目指す指導を行った。また２年生に対しては、他部署と連携して就職支援を行いつつ、「ゼミナール」において、日本人学生および教員との交流を深め、面接や就職活動に役立つ情報やスキルを身につける指導を行った。

社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について（テーマ・講師・日程等を具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマで実施するのか具体的に記述してください。）

学科主催のライブ開催。「メディアプロモーション・コンサート in レソラ」は留学生も参加。オンラインで、スタンドエフエム音声生配信、ショールーム番組生配信、YouTube などの配信。税務署確定申告イベントの参加。福岡財務支局高校生向け、租税教育ビデオのナレーション、ドラマ制作。学科オリジナル楽曲「しあわせになりたい（仮）」ミュージックビデオ制作。ゼミナールにおける多様な国籍の外部留学生との交流授業。

計画に対する実績および自己評価

⑴ 財務省・福岡財務支局の依頼により詐欺防止啓蒙ドラマを２本制作。（令和４年４月 25 日公開）
⑵ 福岡国税局の依頼により確定申告 PR 用動画を制作し、福岡・長崎の公共機関など広く各地で上映。（令和５年１月～3 月）
⑶ オープンキャンパスにおいて、ご当地アイドルを招いたトークショー公開講座を開催。（令和４年９月４日）
⑷ 学科オリジナル楽曲「しあわせになりたい！」ミュージックビデオを制作。（令和４年 10 月７日公開）
⑸ 唐人町商店街・納涼夜市に「西短 MP 学科さくら組」出演。（令和４年８月 20 日）
⑹ 配信ライブ開催。（令和４年８月５日、12 月 22 日）
⑺ 学科ライブ開催。於：甘棠館 Show 劇場（令和４年 10 月５日）
⑻ 学科の軌跡をまとめた本「アイドル力　福岡発！西短 MP 学科が日本を楽しくする」出版。（令和５年２月 10 日）
⑼ 11 期生卒業公演開催。於：福岡市市民福祉プラザ・ふくふくホール（令和５年２月 25 日）

進路（就職）支援実施計画（来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載してください。）

メディア・プロモーション学科は、メディア関連業界への就職を希望する学生に対し、１年次の後半に「宣材」を作成し、学生は各々入りたい事務所にデータを送付している。又、表現者としてだけでなく TV 制作会社の AD などの就職先も確保しつつ、様々な芸能事務所との繋がりを模索しており、学内オーディションや説明会などを行っていく事で、より現実に即した情報を得、進路先の確保に努める。

１年次「キャリア研究」を必修化。就職説明会への引率、面接練習を行う学生への働きかけ、履歴書や志望動機等に関するアドバイスなど、日本語能力試験の受験指導などを積極的に行うことで、就職へとつなげる。また、編入希望の学生に対しては、ゼミナールでの指導を通して支援する。

計画に対する実績および自己評価

メディア関連業界への就職を希望する学生に対し、１年次の後半に「宣材」を作成するよう指導し、学生は各々入りたい事務所にデータを送付。また、「総合演習」などの授業で、様々な芸能事務所の説明会を行い、現実に即した情報を得、進路先の確保に努めた。同じく「総合演習」において、実践的な進路先の確保につながるよう、声優事務所のオーディションなどを行った。

編入希望の学生に対しては、「ゼミナール」での指導を通じて支援した。

留学生に対しては、就職説明会、面接練習、履歴書等に関するアドバイスや、日本語能力試験の受験指導などを積極的に行うことで、就職を支援した。

特別教育事業実施計画（教育ＧＰ等に向けた取組やプログラムの策定等について、構想があれば具体的に記述してください。）

なし

計画に対する実績および自己評価

授業改善実施計画（前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。）
なし
計画に対する実績および自己評価 なし

研究事業計画（学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画）

事業計画名称	事　業　計　画　概　要	備　考
なし		
計画に対する実績および自己評価 なし		

社会活動計画

活　動　概　要	備　考
なし	
計画に対する実績および自己評価 なし	

令和４年度 別科日本語研修課程 事業報告

教育事業計画

事 業 名 称	事　業　概　要	事業経費（千円）	備　考
短期日本語日本文化研修 地域交流 国際交流活動 教師研修講演会 オンライン授業	韓国短期大学グローバル現場学習 当仁校区夏祭り・交流会 学内外の国際交流イベント 講演会・研究会開催 日本語オンライン授業		

計画に対する実績および自己評価

８月当仁校区夏まつりブース出展・ステージ出場
９月韓国短期大学グローバル現場学習実施
９月～11 月ベトナムファンティエット大学日本語クラス実施
11 月当仁小学校文化祭ブース出展・ステージ出場
12 月当仁公民館「地域住民と留学生の文化交流会」参加
３月日本語教師研修会「CLIL 授業実践報告」実施
３月当仁公民館「子どもと留学生の交流会」参加
短期研修受け入れ・地域住民との交流会は予定通り実施、参加できた。

施設・設備関係事業（建物・設備の改修や教育機器の整備等の計画）

事 業 名 称	事　業　概　要	事業経費（千円）	備　考
備品購入	テレビ買い替え プロジェクター購入		

計画に対する実績および自己評価

令和５年度に繰り越し

学生募集・広報事業

事 業 名 称	事　業　概　要	事業経費（千円）	備　考
パンフレット作成 イベント参加　他	SNS での宣伝広告 ベトナムイベント参加者への広報		

計画に対する実績および自己評価

７月ベトナムフェスティバル福岡実行委員会主催「新入生オリエンテーション」参加
コロナの規制も徐々に緩和され、対面でのイベントが復活しつつあり、積極的に参加できた。
ネパールからの留学生の受け入れを開始し、Facebook を通して別科活動の PR をした。今後はネパール語版パンフレット作成や SNS での発信も検討したい。

令和４年度 総務部 事業報告

教育事業計画

事業名称	事　業　概　要	事業経費（千円）	備　考
なし			
計画に対する実績および自己評価 なし			

施設・設備関係事業（建物・設備の改修や教育機器の整備等の計画）

事業名称	事　業　概　要	事業経費（千円）	備　考
なし			
計画に対する実績および自己評価 なし			

人事管理関係事業（就業状況把握や人事考課制度導入、ＦＤ・ＳＤに向けた事業等の計画）

事業名称	事　業　概　要
ＳＤの実施	ＳＤ活動を実施する。
計画に対する実績および自己評価 令和４年度に受審した認証評価において、自己点検・評価のための観点の一つである「火災等の定期的な訓練」の実施について指摘があり、新年度に入る前の３月に急遽ＳＤ研修会を以下のとおり実施した。 ○日　時：事務職員対象　・３月８日（水）　・３月８日（水） 教育職員対象　・３月１３日（月）　・３月１５日（水） ○テーマ：消防訓練（基礎講習） ○講　師：福岡興業株式会社　業務部営業課　防火・防災管理教育担当者　吉田ななみ氏	

その他（自己点検・評価等）

事業名称	事　業　概　要	事業経費（千円）	備　考
自己点検・評価報告書の作成および提出、評価受審	令和４年度の第三者評価（本学は３回目）について、６月末日までに報告書を提出した後、９月から 10 月にかけて訪問調査が実施される。機関別評価は 12 月中に内示があり、３月に決定・通知、公表がなされる。		
計画に対する実績および自己評価 ６月末までに報告書を提出、面接調査は 10 月６日（木）から７日（金）にかけてオンライン（Zoom）にて実施された。基準別の質問および備付資料の確認、学生インタビューや学内施設の確認等が行われた。機関別評価案には２点改善事項が挙げられていたが、改善計画を提出し、３月には適格認定の通知を受けた。			

高等教育無償化に係る機関申請	令和３年度決算を受けて、６月末までに文部科学省に対して機関申請を行う。確認通知・公表等については８月下旬以降随時行われる。 ※令和５年度入学生・在学生が対象となる。		
計画に対する実績および自己評価 ６月 21 日付けで機関要件の確認申請を行い、８月 31 日付けで要件を満たしている旨の確認連絡があった。			
経営改善計画に係る進捗状況の提出	令和２年度開始の経営改善計画（５年計画）にについて、令和３年度の財務状況および４年度学生募集の状況等、進捗をとりまとめて７月までに提出する。		
計画に対する実績および自己評価 ３年目の計画とその現状報告（７月）に基づいて、10 月にヒアリング（オンライン）が実施された。			

令和４年度 学務部 事業報告

教育事業計画

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
非常勤講師会の開催	新年度授業開始前に、非常勤講師に対して、建学の精神を軸とした本学の教育充実を図るために、講師会を開催し所要の情報の共有を図りたい。 全体会並びに学科別の分科会を開催し授業に関することを中心に説明、意見交換を行うものとする。	４００	
計画に対する実績および自己評価 非常勤講師会を新型コロナウイルス感染防止に努めつつ、対面式で開催した。参加者人数は56名。全体会及び学科別分科会を通して、本学の建学の精神、教育目的をはじめ授業実施における諸連絡事項、修学支援コンピュータシステム運用の説明など所要の情報共有を行った。 〇非常勤講師連絡会 開　催　日　令和５年３月２３日（木） 日時・場所　全体会10時　031教室 分科会11時　学科別に開催			

施設・設備関係事業（建物・設備の改修や教育機器の整備等の計画）

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
修学支援コンピュータシステムの改修	令和３年度の学務・進路に係る事務処理コンピュータシステムを更改した。他のメーカーより安価なパッケージ化されたシステムであるため、必要最低限の機能については、改修を図りたい。	１，０００	
計画に対する実績および自己評価 新規修学支援コンピュータシステムの運用を開始して、２年を経過した。 令和４年度は、保守契約の範囲内のシステムの調整を行った。コンピュータシステムを利用した教務関係諸業務について、紙ベースの旧システムに比べて格段に効率的になった。			

学生募集・広報事業

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
入試関係 ①地方試験	沖縄地方試験受験者については、令和３年度は１名であったが、今年度も引き続き実施し学生募集に繋げたい。		
計画に対する実績および自己評価 令和４沖縄地方試験受験者は７名であった。これは前年比６名増加である。 沖縄募集担当主事による募集活動が奏功している。 沖縄の高校の先生の要望もあり引き続き募集活動及び地方入試を実施し次年度に繋げたい。			
②オープンキャンパス	福岡県内の高校を重点的に訪問する。福岡県外からの参加意欲を高めるために送迎バスを出す地域の高校に対しては送迎バスのPRを行い参加者		

	数増に繋げたい。		

令和４年度の夏季オープンキャンパスの参加者数は332名で前年比37名の増加となった。
令和５年から、オープンキャンパスを毎月開催することとしたため、令和５年度１月～３月の参加者数は44名で前年比21名の増加であった。
７月から開催していたものを５月に前倒しして開催していくので、高校生の参加機会を増やし参加者増を図っていきたい。

③進学ガイダンス	進学ガイダンスについては、高校生と直接面談する場となり、募集上重要である。教員の協力を得ながら、福岡県内の進学ガイダンスについては、可能な限り全て参加をしていきたい。		

計画に対する実績および自己評価

大勢の高校生がホールに集合する進学ガイダンスについては、新型コロナウイルスの影響を考慮しつつ開催会場を４会場に選定した。参加した生徒数は、昨年度から13名増加した。

高校内ガイダンスについては、感染防止に注意しつつ随時開催されたが、コロナ最大感染者数の第６～８波の感染者の増加の影響と本学附属高校のガイダンスがなかったため、参加者数は昨年度より 224 名の減少となった。

	会場ガイダンス	高校内ガイダンス
令和３年度	５会場37名	49校991名
令和４年度	４会場50名	65校767名

⑤外国人留学生関係	国内の日本語学校の募集活動に力を入れた結果、コロナ禍で外国人留学生が減少しているが、今後も募集していきたい。		

計画に対する実績および自己評価

５年度外国人留学生の入学者数は42名で前年比３名減少した。

新型コロナウイルス禍の影響に左右されるところが大きく、日本語学校からの外国人留学生が減少し、代わりに国外から外国人留学生の入学が復調した。

	別科から短大入学	国内外外国人留学生	国外外国人留学生
令和４年度 (45名)	７名	38名	０名
令和５年度 (42名)	６名	18名	18名

人事管理関係事業（就業状況把握や人事考課制度導入、ＦＤ・ＳＤに向けた事業の計画）

事業名称	事　業　概　要	事業経費（千円）	備　考
学外FD研修会及び学内FD勉強会	FD 委員会の活動の一環として、コンソーシアム京都が主催する FD フォーラムの研修に参加している。 また、外部講師を招聘して、FD 勉強会を実施する。	１００	

計画に対する実績および自己評価

・FD 委員が FD フォーラムに参加して研修を受けた。

テーマ：「ポストコロナで遠隔授業をどのように活用できるのか」

オンライン授業実施に対する整備が整った今、体面授業にこだわりなくハイブリット授業を展開できるようになった事例報告等があった。

・ＦＤ委員会主催でＦＤ勉強会を次のとおり開催し研修を行った。

日　時：令和５年３月２日（木）

テーマ：「メンタル面に不安を感じている学生への対応について」

本学が聴きたいテーマをＦＤ委員会で設定して、専門の外部講師から研修を受けた。

今後の学生対応に活かしたい。

令和４年度 財務部 事業報告

施設・設備関係事業

事業名称	事　業　概　要	事業経費（千円）	備　考
計画に対する実績および自己評価			
＝設備関係＝	・二丈　ロボット草刈り機入替 ・電話機・主装置更新工事 ・講義用ノートＰＣ12 台 ・052 教室プロジェクター入替 ・音楽室プロジェクター入替 ・小川研究室ルームエアコン入替 ・金子研究室ルームエアコン入替 ・二丈キャンパス電話機器入替 **合　計** 当初計画の「二丈　ロボット草刈り機入替」と「電話機・主装置更新工事」は予定どおり実施した。例年、夏と冬にエアコンの不調が多く報告されるが、令和４年度も５件のエアコン不調の報告があり、１件は修繕対応し２件分は入替、２件分は次年度以降持ち越しとなった。現状、エアコンやＰＣ等の機器は耐用年数を過ぎても使用しており、修繕不可能になった場合に入替を行っている。本学教職員の業務に支障の出ないように設備を整えたいが、耐用年数を過ぎた機器が多く、入替には多額の経費が必要となる。今後も継続して優先順位を考慮し実施・購入を行っていかなければならない。	５９４千円 ４，２９２千円 １，１００千円 １，８９２千円 ４９９千円 ９３千円 １１０千円 ４１８千円 **８，９９８千円**	

その他事業

事業名称	事　業　概　要	事業経費（千円）	備　考
計画に対する実績および自己評価			
その他	・エレベーターリニューアル工事 ・粉末消火器取替作業、移動式粉末消火設備取替作業 ・本館５階非常ドア改修工事 ・家政実習室　LED 化作業 ・学校会計システム導入 **合　計** 当初計画の「エレベーターリニューアル工事」や「粉末消火器取替作業、移動式粉末消火設備取替作業」、「本館５階非常ドア改修工事」など緊急性の高い案件を実施した。二丈キャンパスの鐘つ	５，７９０千円 １，２１０千円 ６１６千円 １５９千円 １，０７６千円 **８，８５１千円**	

	き場の修理など次年度持越の案件もいくつかある（予算より上回った事業の経費に一部充当）。計画外で多く発生する案件の対応策も今後考えていかなければならない。		

令和４年度 学生支援事務部 事業報告

進路（就職）支援実施事業計画

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
進路指導	昨年は、コロナ感染拡大により、まん延防止法及び緊急事態宣言の中、企業説明会、就職説明会がほとんどオンラインとなり、積極的な就職活動ができなかった。 今年度も感染終息の気配が見られない中、例年以上に各学科の教員と連携し情報共有を行い、進路指導を行っていく予定。 ⑴ 就職模擬試験 全学科の１年生対象に実施。学生の基礎学力がどの程度であるかを把握し、その結果を参考として進路希望の面談等に活用する。 ⑵ 適性検査 保育学科、社会福祉学科の留学生以外の１年生対象に実施。学生の職業の適性を判断する参考資料とする。 ⑶ 進路参考資料の購入・配布 ・「就職活動ハンドブック」全学科１年生に配布 @1,500 × 200 冊 ・各種試験問題集、資格関係等の書籍購入、学生に貸し出し	 １７５ １８０ ３００	

<u>計画に対する実績および自己評価</u>

⑴ 就職模擬試験を実施

４月 健康スポーツコミュニケーション学科（２年）10 名 平均点 101.5 点（全国平均点 117.2 点）

６月 ビジネス法学科（１年）32 名 平均点 120.7 点（全国 124.1 点）

緑地環境学科（１年） 27 名

社会福祉学科（１年） 10 名

保育学科（１年） 39 名

メディア・プロモーション学科（１年） 14 名

11 月 健康スポーツコミュニケーション学科（１年） 19 名 平均点 104.2 点（全国平均点 117.3 点）

経費 ４月分 @1,400×10 名＝14,000 円

６月分 @1,400×122 名＝170,800 円

11 月分 @1,400×19 名＝26,600 円

⑵ 適性検査を実施

10 月６日 社会福祉学科、保育学科以外の留学生を除く１年生を対象。

10 月 27 日 検査結果を学生に配布し、担当業者より解説。

受検者 ビジネス法学科 41 名、緑地環境学科 27 名

健康スポーツコミュニケーション学科 18 名

メディア・プロモーション学科 13 名

経 費 @2,000×99 名＝217,800 円

進路開拓	福祉関係・保育関係の求人は安定。学生に紹介しきれない数がきている。一般企業からの求人もあるが、学生の希望とマッチングしない状況である。		

	学生の進路希望を確認したうえで、進路開拓・企業開拓を進める予定。同時に、業者主催の各種就職説明会等を活用し、各学科のキャリア演習その他の時間に組み込んでもらい学生の積極的な就職活動を促す。そのために、進路指導の年間計画を各学科の教員に周知させる。 ⑴ 業者主催説明会・相談会の開催 学生と企業をつなぐ業者を活用し、企業情報、採用試験情報を学生に提供。特に卒業間近の未決定者に対して、最終的な情報を提供し、業者の力を借りて進路決定の後押しをしていく。 ⑵ 企業等の訪問 募集担当の事務職員と一緒に、企業や施設を訪問予定。特に一般企業を中心に、学科教員や学生の要望をくみ取りながら、定期的に訪問していく。 なお、その結果については、報告書等で各学科や学生にフィードバックしていく。	 １００ ５０	

計画に対する実績および自己評価

⑴ 業者主催説明会・相談会の開催

12 月１日（木）、「大学新聞社」主催で、各学科１・２年生の留学生対象に対面で就職説明会を実施。１年生に対しては日本で就職する上での意識付けを行うことができ、２年生は実際に求人票をもらうことができて、直接就職活動に繋がった。次年度以降も引き続き留学生を対象とする就職説明会を実施していく予定。

また、令和５年１月 26 日（木）、同じく「大学新聞社」主催で、ビジネス法学科１年生を対象に体育館で企業説明会実施した。当日は３社が参加して対面での開催となった。学生にとっては、２年次になる前、就職活動が始まる直前のため非常に貴重な体験となった。今後も継続していく予定である。

経　費　　「大学新聞社」及び参加企業へのお礼の品代　9,486 円

⑵ 企業等の訪問

募集担当の職員と一緒に、企業や施設を訪問する予定であったが、訪問はできなかった。その代わり、企業訪問した募集担当の職員から報告を受け、情報を共有した。その結果、訪問先企業から求人票をもらうことができた。

情報共有	⑴ 求人票の学生ポータルサイト掲載 一般企業・福祉施設・保育園・幼稚園等からの求人票は、随時、学生ポータルサイトへ掲載し、学生がいつでも閲覧できるようにする。 ⑵ 他部署・教員との情報共有 学務課との情報共有を強化する。特に履修状況や成績概況に関する情報を活用しながら学生へ就職先、編入先を紹介していく。		

計画に対する実績および自己評価

⑴ 各学科のキャリアガイダンス等に於いて説明を行っているので、求人票のポータルサイト活用も、徐々に学生に浸透してきている。しかし、やはり積極的な学生は、学生支援室に来て直接求人票を閲覧している様子。今後も引き続き、ポータルサイトを活用しながら、学生支援室における直接的な案内や指導も行っていく予定。

⑵ 学科毎に就職状況を報告し、情報を共有した。就職状況が悪い場合は、教員に対し指導をお願いした。他部署とは、学内のシステム（キャンパスマジック）を通して、履修状況や成績概況に関する情報を共有した。

卒業生支援	卒業生を対象に、毎年アンケート調査を実施。職業定着率、就業状態などを把握し、情報をフィードバックさせ、学生の進路支援に役立てる。	１０	

	なお、卒業後の早期離職者については、原因を分析するとともに、年度途中の再就職についても紹介していく予定。		

計画に対する実績および自己評価

令和４年12月に卒業生に進路アンケートを行った。今回は、QRコードからグーグルフォームを使っての回答をお願いした。その結果、前年を上回る回収率となった。（　）は前年の回収率。

〇卒業生アンケート　**短期大学全体**　**25.8%（18.1%）**

・ビジネス法学科　24.2%（16.7%）
・緑地環境学科　20.0%（11.6%）
・社会福祉学科　18.8%（19.5%）
・保育学科　30.0%（24.5%）
・健康スポーツコミュニケーション学科　26.7%（30.0%）
・メディア・プロモーション学科　30.0%（8.8%）

前年を上回ったとはいえ、回収率は依然として低いため、卒業生の意見を集約しているとは言えないが、アンケートの質問内容「あなたはどの程度、現在の仕事や進学先に満足しているかとの質問にはとても満足しているが22.0%、満足しているが26.8%となっており、半数近くが満足しているとの結果が出ている。今後は、更に回収率の向上、満足度の向上に努めていきたい。

また、令和５年１月に前年３月卒業生の就職先に対して、職場評価アンケートを行った。これは、従来の回答用紙に記入して返送する方法と、ＱＲコードを読み込みグーグルフォームで回答する方法の２通りで就職先に回答を依頼した。これは、残念ながら前年を下回る回収率となった。

〇就職先アンケート　**短期大学全体**　**70.2%（72.7%）**

・ビジネス法学科　45.5%（52.4%）
・緑地環境学科　76.9%（69.4%）
・社会福祉学科　74.0%（83.7%）
・保育学科　83.9%（85.7%）
・健康スポーツコミュニケーション学科　71.4%（50.0%）
・メディア・プロモーション学科　41.7%（61.1%）

アンケートの質問内容「一般教養を備えているか」との質問には、非常に備えているが 11.8%備えているが39.3%と、これも半数以上が評価してもらっているとの結果がでているが、反面、各就職先から、更に教育や指導を徹底しておいてほしいとの厳しいコメントもいただいており、学生支援部と各学科における大きな反省点及び改善目標となっている。

施設・設備関係事業（建物・設備の改修や教育機器の整備等の計画）

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
レイアウト変更に伴う学生サービスの充実	レイアウト変更により、室内が拡張されたため、コインベンダー付きのコピー機を設置し、学生の利用に供する（学生食堂に１台設置されていたものが撤収されたため）		

計画に対する実績および自己評価

室内拡張により、コロナ禍においても、あまり密になることなく、学生の対応が可能となった。

学生の来室目的は様々で、時期的に、奨学金の申請、学納金の支払い関係、クラブ関係の申請、留学生の手続き関係、就職活動関係と重なることがあるが、それぞれ担当者が付き、混雑することなく対応することができた。今後は、室内に設置しているパソコンをもっと学生に活用させて、進路開拓や、リクナビ、マイナビ等のエントリーにも役立ててもらいたいと考えている。

進路、進学先等への広報事業計画

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
事業所・大学訪問等	他の企業訪問と同様、学生の個人面談を通して進路希望先を確認しながら訪問、進路開拓を行う。大学への訪問については、編入希望学生が少ないため、特別の依頼がない限り訪問を行う予定はない。	２０	
計画に対する実績および自己評価 本学が事業所を訪問するというよりも、事業所から本学への訪問が相次いだ。コロナ感染が収束に向かったことで、保育園や施設から求人依頼を兼ねて挨拶に来たいとの連絡が増加し、教員同席のお願いや時間の調整が難しかった。また、学科によっては、実習も関わってくるため、教員がお礼やお詫びの訪問を行った。 大学への訪問は、編入先も固定化しているため、訪問は行わなかった。			

その他

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
研修会・セミナー等への参加	昨年に引き続き、オミクロン株によるコロナ感染の急拡大の影響を受けて、既に幾つかの研修会が中止となっている。今後どうなるか予断を許さない状況であるが、オンラインであっても可能な限り参加する予定。	３０	
計画に対する実績および自己評価 今年もオンラインで12月２日（金）に福岡地区短期大学の「就職担当者連絡協議会・情報交換会」に参加した。本学の他、福岡地区の短大10校が参加し、11月現在の進路決定状況や求人状況について情報交換を行った。 また、２月には昨年に続き、対面で商工会議所主催の「学校と企業との就職情報交流会」に参加した。 参加企業は70社、学校は40校に及び、開催時間一杯活発な面談が行われ、本学にも多数の求人依頼があった。企業の担当者によると、学生はイメージで会社を選ぶ傾向があり、製造業等の会社の採用は厳しい状況にあるが、イメージに左右されることなく、しっかりと会社の情報を収集して就職活動を行ってほしいとのことだった。			
幼稚園・保育園懇談会 就職説明会等	特に幼稚園・保育園との懇談会は、養成校としての要望を園側に出せる貴重な機会でもあり、園側の状況報告を聞くことができる機会でもあるので、積極的に参加していきたいと考える。		
計画に対する実績および自己評価 幼稚園・保育園との情報交換会、協議会、説明会には可能な限り参加し、情報交換を行った。 ・５月に対面で「久留米市保育協会　意見交換会」に参加。 ・６月にオンラインで「福岡県幼稚園教諭・保育士就職問題連絡協議会」に参加。対面で「福岡市保育園就職フェア」が開催。学生と教員が参加。 ・７月に本学で「福岡市立幼稚園連盟」の就職説明会が開催。保育学科学生が参加。 ・11月、１月に対面で「福岡県私立幼稚園振興協会福岡部会」に参加。本学からの要望を伝え、園側の状況報告も聞くことができて、貴重な情報交換の機会となった。			
インターンシップへの参加	本学は「九州インターンシップ協会」に加入し積極的に学生にインターンシップへの参加を勧めてきたが、昨年からコロナの影響で、予定通り実施できない企業が出てきている。しかし本学では、例年どおり「インターンシップ実習指導」	１００	

	の授業の中で、引き続き、インターンシップの重要性を学生に伝え、就職活動に役立ててもらっている。		

計画に対する実績および自己評価

令和４年度は、九州インターンシップ推進協議会の夏季インターンシップに 13 名の申し込みがあったが、コロナの影響により、最終的に４名の参加者となった。

経費　九州インターンシップ推進協議会年会費　100,000 円

夏期インターンシップ学生参加費　@10,000×４名＝40,000 円

留学生支援・留学生募集・広報事業

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
留学生の支援	2022 年２月時点での留学生数は、短大生 123 名、別科生 18 名が在籍している。 １．留学生支援 2021 年度に学内部署編成により新しく設置された学生支援部において、2022 年度も引き続き、留学生に対しても、多方面から複合的な支援ができるようになった。また、2021 年度の反省点及び実績に基づいた支援ができるようになったので、今後は更に細かな支援をしていきたいと考えている。しかし、コロナ感染拡大の影響は留学生を直撃しており、当分は影響が継続することが予測されるため、経済的、精神的支援が必要になってくると思われる。 １）短大生活支援 短大生活が順調であるかについては、授業への出席率等に大きく表れる。何らかの問題を抱えていれば、欠席という形で出てくる。そのため、留学生の出席状況の確認は、昨年同様、毎月の出席状況を調べて指導していく。出席率は、入国管理局への在留資格期間更新申請時に重要であるため、そのことを十分に伝えて指導していく。欠席が１週間続いた場合は、メールや電話での連絡の他に自宅まで出向き欠席の理由を確認する。 ２）生活支援 2020 年度から続く新型コロナ感染拡大の影響で、アルバイトが出来なくなっている学生もいて、生活はかなり厳しくなっている。2022 年度もこの状態が続くと考えられるため、生活支援が重要になると思われる。学費から生活費までをアルバイトで賄っている学生も多いので、アルバイトが出来ないのはかなりの打撃である。そのため、メールや電話で直接的、積極的に、アルバイトの情報提供を行っていく。同時に、週 28 時間の資格外活動を遵守させることも重要であるため、年に数回給与明細のコピーを提出させアルバイト時間の確認をする。少なくとも各期１回は個別面談を実施し、生活面での情報		

	（住所・アルバイト先・国民健康保険料の支払いなど）を得ながら指導していく。 ３）就職支援 　就職支援については、在留資格とも関係することから、学習したことを活かせるような就職先を優先して学生に紹介していく。しかし、この就職先もコロナ感染拡大の影響により大きく減少した。 そのため、より積極的な情報提供を行い、留学生の意欲を高めていきたいと考える。特に2022年度は、個人面談をとおして、就職を考えている学生の把握をしたうえで、企業開拓など積極的に動きながら、しっかり就職に繋がる支援をする。併せて、就職に必要な日本語能力試験の受験も強く勧めていく。 ２．留学生寮（宿舎） 宿舎については所有していないため、別に、入学者数に応じて近隣のアパート・マンションなど借り上げて寮としている		

計画に対する実績および自己評価

⑴　短大生活支援

　令和４年度後半は、コロナ感染も終息の方向に向かい、学生のアルバイト事情も好転してきたが、本学は、経済的に困窮している学生が大半を占める。そのため、各種団体からの支援は積極的に受け入れるように努めた。具体的には、「文部科学省外国人留学生学習奨励費給付制度」、「日本国際教育支援協会　緊急支援奨学金」「福岡県国際交流センター　福岡アジア留学生里親奨学金」など。また、学費については、元々「私費外国人留学生授業料減免規程」を定め、入学時に減免願いを提出することにより年間22万円を減免しているが、納期についても、個別に延納の相談に応じている。

⑵　就職支援

　留学生の就職については、就職説明会を積極的に開催し、各企業や既卒者のいる就職先に、受け入れの依頼を行った。しかし留学生の求人は厳しい状況が続いている。その中でも、日本語能力試験Ｎ２を取得していれば、受け入れ可能な企業もあるので、在学中は日本語能力試験の受験を強く勧めた。

留学生募集	コロナ感染拡大の影響で、海外からの留学生が入国できない状態が続いている。今後入国制限が解除になっても、おそらく短大の前期の授業には間に合わないため、入学時期の変更や休学など、柔軟な対応が必要になってくる。募集活動については、海外渡航が出来ない可能性が高いため、別科日本語研修課程のホームページは多言語対応とするなど方法を考えている。その他にも、行動が制限される中では、より一層インターネットを活用していく予定である。 また、卒業生や在校生の力を借りることも必要になってくると考えられる。		

計画に対する実績および自己評価

　コロナ感染の終息傾向に伴い、出入国制限が緩和されたため、国外における募集活動を徐々に復活した。具体的には、ベトナムの大学や高校に対して、本学の説明会を行った。その結果、大学や高校との直接的な連携が生まれ、本学の日本語センターが開設され（３か月間）、本学への関心が深まるきっかけとなった。今後、更に出入国が容易になり、航空便も増加してくれれば、より一層活発な交流が想定されることから、積極的な留学生募集を検討していく予定である。

広報事業	本学には、広報部と総務部広報企画室があるため、担当者と相談しながら広報にも力を入れていく。広報企画室とは、就職状況などの情報を提供し、広報活動がより効果的になるように協力していく。チラシなども必要に応じ、作成していく。		

計画に対する実績および自己評価

総務部広報企画室長と情報を共有しながら、パンフレットやホームページその他の媒体をとおして、学生の就職状況や学園祭や各種イベントの情報を発信した。また、部分的ではあるが、学生のコメントを記載したチラシを作成し、高校訪問に役立ててもらうようにした。

令和４年度 広報部 事業報告

学生募集事業

事 業 名 称	事　業　概　要	事業経費（千円）	備　考
高校、通信高校、日本人学校訪問	実績ある高校 149 校、通信高校 12 校、日本語学校 43 校 合計 204 校。 生徒募集の基本は高校訪問なので、教職員・事務職員は、実績のある昨年の高校を訪問し、進路指導の先生とコミュニケーションを深めて、また訪問後のアフターフォローを行い、つながりが途切れないように対応して行く。 高校の進路指導の先生が、就職先を重要視されているので新卒の新しい就職先を開発する。 昨年実績のある福岡都市圏の 12 校の通信高校は、令和４年度入学者の実績もあるので、オープンキャンパス案内の訪問を始め、複数回訪問する。 日本語学校は国の政策で入国出来ないので、いつ入国出来ても訪問出来る準備はしておく。		

計画に対する実績および自己評価

令和４年度は、従来通りの高校訪問の実施方法を変更して、高校 90 校、日本語学校 40 校　合計 130 校を訪問した。

各学科で重点校と考えている高校に対しては、学科教員が同行し、在学生の状況、学科独自の教育、学生生活についてより詳しく説明を行い、事務職員独自の訪問とは違った高校へのアプローチができた。

令和４年３月から新型コロナウイルス禍による国外外国人入国規制が緩和されており、国内日本語学校留学生数は増加しているが、本学入学は 18 名と前年比 20 名減少している。日本語学校が１年半～２年の就学期間であるため、今年度が底で、来年度以降大学進学者が増加していくと思われるので、今後も募集活動に注力したい。

通信高校も指定校 10 校全て訪問しコミュニケーションを深め、入学につながった。

コロナ禍の終息が見えない中での訪問であり、気を遣う１年であったが、オープンキャンパスの周知は達成できた。

令和４年度 附属高等学校 事業報告

教育事業（新学科設置や新コース設定、資格取得に向けた新カリキュラム策定、教育プログラムの策定等の計画）

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
公務員講座授業開始	令和４年度より、西日本短期大学ビジネス法学科より講師を招いて、公務員試験に特化した授業を展開する。		
計画に対する実績および自己評価 週２コマで実施。内容も高校では学ぶ内容とは異なり、公務員試験に直結するものでより専門的な授業が展開できた。			

施設・設備関係事業（建物・設備の改修や教育機器の整備等の計画）

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
１．吹奏楽部楽器等の充実	令和３年度吹奏学コンクールにて九州大会金賞を受賞した。令和４年度は新入生が 40 人を超え、総部員数が 100 名を超えるため、新規に楽器を購入したい。	６，６５３	令和４年度新入部員 40 名
計画に対する実績および自己評価 予定通り新規に楽器を購入した。令和３年度に引き続き令和４年度吹奏学コンクールにて、二年連続となる九州大会金賞受賞を果たした。			
２．校内教職員用電話機交換	現状の電話機は、故障が多く型式も古いため、新規に入替を実施したい。	２，５０２	
計画に対する実績および自己評価 予定通り校内の電話機入替を実施した。故障等による不具合などが解消した。			

人事管理関係事業（就業状況把握や人事考課制度導入等の計画）

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
広報担当職員配置	広報担当の嘱託職員を、広報室に配置する。	２，４００	
計画に対する実績および自己評価 広報部常駐職員１名を配置し、広報業務がより円滑になった。			

学生募集事業（中学校訪問等の計画）

事業名称	事業概要	事業経費（千円）	備考
１．中学校・学習塾対策費	1. 体験入学（年６日）、各種説明会（中学校ＰＴＡ・中学校対象・塾対象等）、中学校での出前講座・出前授業、個別入試相談会（年 10 日）等の関係費		

	2. 中学校・塾訪問及び情報交換会等の諸経費 3. 昨年度入試問題集印刷費 4. 入試業務関係費 5. 西短バッグ・クリアファイル・募集専用封筒作成・購入 6. 参加お礼ハガキ（体験入学・個別入試相談会）・中学校・塾への暑中お見舞い・年賀ハガキ作成 7. 本校紹介 DVD 作成		
計画に対する実績および自己評価 コロナ禍の中でも１～６事業はしっかりと取り組むことが出来ました。７は次年度完成する計画で動いています。			
２．広告宣伝費	1. 学校案内・みなみの太陽（年２回）・ポスター・#nishitan 2. チラシ(コース説明用、体験入学・個別入試相談会用)・コース別オリジナルリーフレット作成 3. 高校進学用雑誌（フクト・昭栄広報）等への広告 4. スクールバス側面本校紹介掲示 5. ホームページ更新		
計画に対する実績および自己評価 「２．オリジナルリーフレット作成」と「４．スクールバス側面本校紹介掲示」が実施できなかった。教員からも取り組んでほしい声があがっているので、完成させ広報活動に活かしたい。			
３．催事関係費他	1. 私学展 2. 学校イメージアップ活動（校外ポスター掲示・紹介資料置き場設置） 3. 中学校での勉強会・面接対策会（ノート配付） 4. 入試合格者用問題集（専願ノート）+お勧め読書本紹介 5. 生徒募集成功校視察研修 6. 吹奏楽部中学校との合同練習会関係		
計画に対する実績および自己評価 「５．生徒募集成功校視察研修」は実施できなかった。次年度は県外校も訪問し、研修できる機会をつくりたい。			

資　　料　②

令和５年５月１日現在の学生、教職員数

１．設置する学校、学科等の入学定員、現員等（令和５年５月１日現在）

西日本短期大学

学　科　名	入学定員（人）	収容定員（人）	入学者数（人）	在籍者数（人）	充足率（%）	備　考
ビジネス法学科	50	100	50	91	91.0	
緑地環境学科	50	100	28	58	58.0	
社会福祉学科	50	100	54	100	100.0	
保　育　学　科	90	180	33	72	40.0	
健康ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	30	60	7	26	43.3	
ﾒﾃﾞｨｱ･ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ学科	40	80	25	40	50.0	
計	310	620	197	387	62.4	

別科

課　程　名	入学定員（人）	収容定員（人）	入学者数（人）	在籍者数（人）	充足率（%）	備　考
日本語研修課程	150	150	31	47	31.3	

附属高校

課　程　名	入学定員（人）	収容定員（人）	入学者数（人）	在籍者数（人）	充足率（%）	備　考
普　通　科	200	600	155	462	77.0	

２．教職員の人数（令和５年５月１日現在）

〈教員数〉

短期大学　　（学長は含まない）

学科名	教　授	准教授	講　師	助　教	助　手	小　計	非　常　勤		小　計	合　計
ビジネス法学科	3	1	0	1	0	5	客員 1名	20	21	26
緑地環境学科	3	1	1	2	0	7	客員 4名	19	23	30
社会福祉学科	2	0	4	1	1	8	客員 1名	13	14	22
保　育　学　科	4	1	1	2	0	8	客員 1名	25	26	34
健康ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	2	1	0	1	0	4	客員 0名	16	16	20
ﾒﾃﾞｨｱ･ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ学科	2	1	1	2	0	6	客員 1名	13	14	20
計	16	5	7	9	1	38	8	106	114	152

別科

課程名	別科長	教　員	－	小　計	非　常　勤	小　計	合　計
日本語研修課程	(1)	(2)	－	(3)	11	11	(3) 11

※注 …（）内の3名は、各学科の教員数でカウント。

附属高校

課程名	校　長	副校長	副教頭	教　諭	養護教諭	講　師	小　計	非常勤	小　計	合　計
普　通　科	1	1	3	17	1	11	34	10	10	44

〈職員数〉

( )内は嘱託　－内数－

学科名			
法　人　本　部	1	名	(1)
ビジネス法学科	6	名	(2)
緑地環境学科	4	名	(1)
社会福祉学科	7	名	
保　育　学　科	5	名	
健康ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	2	名	
ﾒﾃﾞｨｱ･ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ学科	3	名	
別　科	0	名	
計	28	名	(4)
附　属　高　校	9	名	(4)
合計	37	名	(8)

※臨時職員除く。

３．理事・評議員・監事について（令和５年５月１日現在）

（1）理　事

８条１項１号	溝口　智之
８条１項２号	八尋　清繁
８条１項３号	新宮　五三
	溝口　虎彦
８条１項４号	阿利　欽章
	今永　一成
８条１項５号	田坂　大藏
	北嶋　藤孝

監　事

１５条	内田　信行
	羽子田　泰宏

（2）評議員

２１条１項１号	中野　幹子	大浦　太津也	冨永　明子
	橋本　五男	多賀　晃	枝元　一登
２１条１項２号	阿利　欽章	執行　英利	古家　司
	小山　徹志	大里　公二	別府　壽信
	川波　慎太郎	一山　幸子	星子　和夫
	髙宮　さやか	弓削　博輝	井上　靖
２１条１項３号	溝口　虎彦	溝口　智之	北嶋　藤孝
	新宮　五三		
２１条１項４号	森田　修示	北野　哲也	真子　一博